



4 Windowsの セットアップ

起動監視機能の設定方法、初めて装置の電源をONにするときのセットアップ、OSを再インストールするときのセットアップ、LANの二重化の設定、ディスクの二重化の設定などについて記載しています。

セットアップを始める前に

セットアップを始める前に必ずお読みください。

本章では2通りのセットアップについて記載しています。

- 初めて電源をONにするときのセットアップ手順
- OSを再インストールするときのセットアップ手順

初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合の手順です。

Express5800/ftサーバのハードディスクドライブには、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定、ハードディスクドライブの二重化(システムパーティションのみ)設定からOS、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。購入後、初めてセットアップされる場合はこちらのセットアップを行います。「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」(4-4ページ)にお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合の手順です。

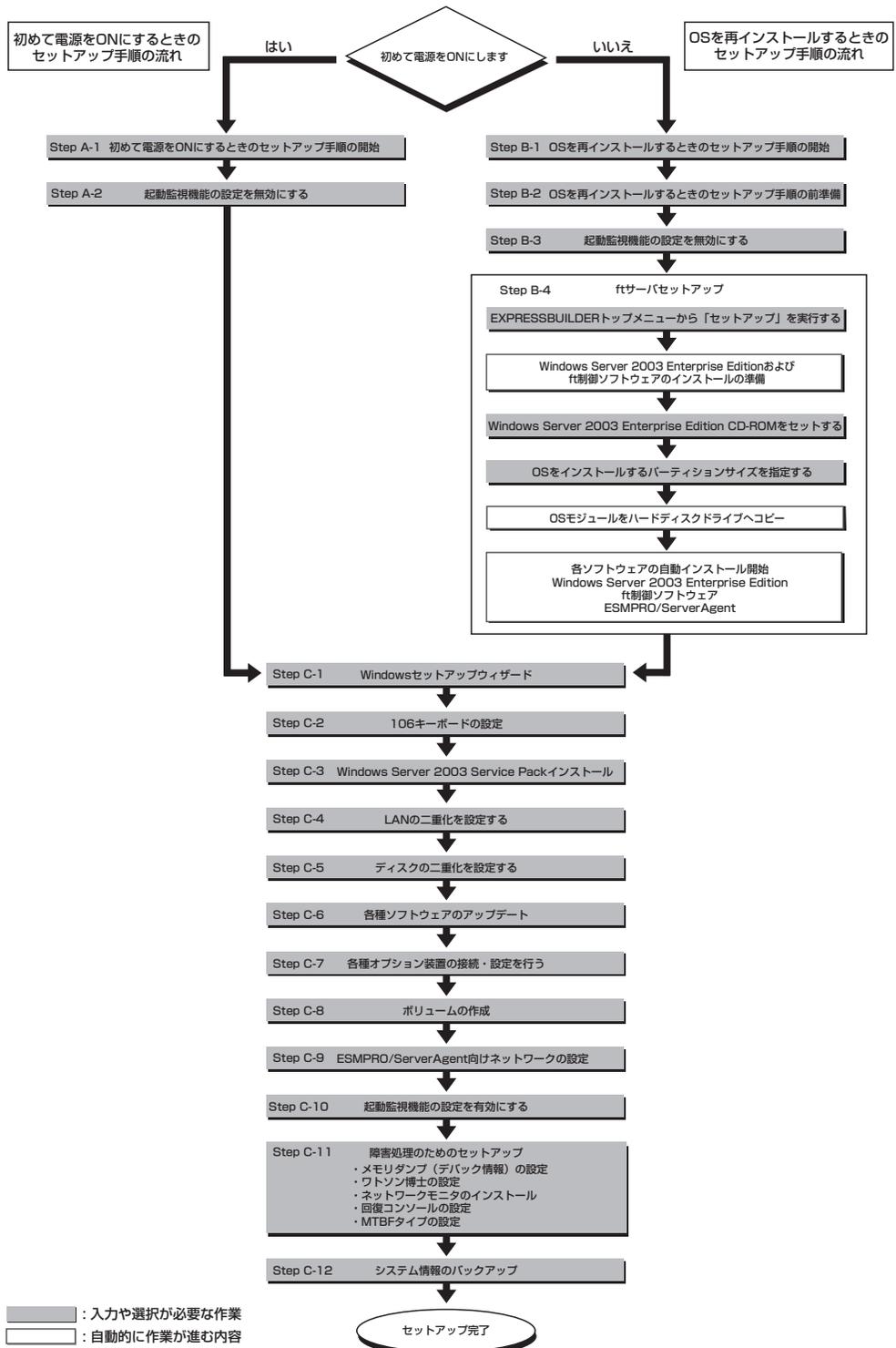
Express5800/ftサーバではEXPRESSBUILDERを使ってOSの再インストールを行います。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動したときに表示されるメニューの「セットアップ」の項目を選択することで実行されるExpress5800/ftサーバシリーズ独自のセットアッププログラムを「ftサーバセットアップ」と呼びます。

「ftサーバセットアップ」では、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows)、各種ユーティリティのインストールまでを自動でセットアップすることができます。

ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、こちらのセットアップを行います。「OSを再インストールするときのセットアップ手順」(4-10ページ)にお進みください。

セットアップの流れ

本装置のセットアップの流れを図に示します。



初めて電源をONにするときのセットアップ手順

購入後、初めてセットアップされる場合は以下の手順を行ってください。

なお、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにおいて、最新のft制御ソフトウェアを確認し、本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンが古い場合には、以下の手順によるセットアップ後、Webページに掲載されているアップデート手順に従ってシステムのアップデートを実施してください。



本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」CD-ROMおよびft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMのバージョンを確認するには「ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法」(5-16ページ)を参照してください。

1. Step A-1～Step A-2を行う。
2. Step C-1～Step C-12を行う。



上記で示す方法以外のセットアップでは、Express5800/ftサーバを正しくセットアップすることができません。

Step A-1 初めて電源をONにするときのセットアップ手順の開始

購入後、初めて電源をONにする場合のセットアップ手順の開始です。
セットアップを開始する前に以下のものを準備してください。

- ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- ユーザーズガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- 本装置添付のWindows Server 2003 Service Pack CD-ROM
Service Packの適用は任意です。
Service Packを適用される場合はご使用ください。

「Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする」(次ページ)に進みセットアップを行ってください。

Step A-2 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。

本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています(本機能は出荷時の設定で有効となっています)。

本装置の購入時にインストール済みのオペレーティングシステムをセットアップするときには監視機能の設定を無効にしてください。監視機能の設定を無効にしない場合はインストール済みのオペレーティングシステムのセットアップを失敗します。

ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、購入時にインストール済みのオペレーティングシステムは使用できなくなります。再インストールを行わなければ使用できません。

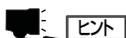


起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。



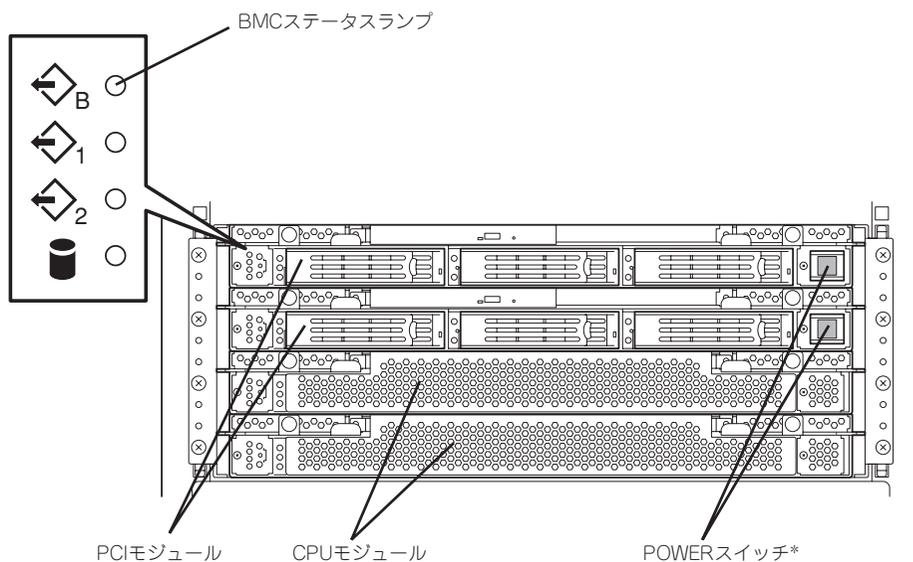
無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。



Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通电後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. ラックマウントモデルの場合はフロントベゼルを取り外す(タワーモデルの場合はフロントベゼルを開く)。

3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀^B)が消灯していることを確認し、Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。(図はラックマウントモデルのものです。タワーモデルとは向きが異なるだけです。)



* POWERスイッチはランプが点灯している方のみ使用できます。

重要

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- 電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀^B)の消灯を確認後、POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行してExpress5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧ください。POSTを完了するとWindows Server 2003が起動します。

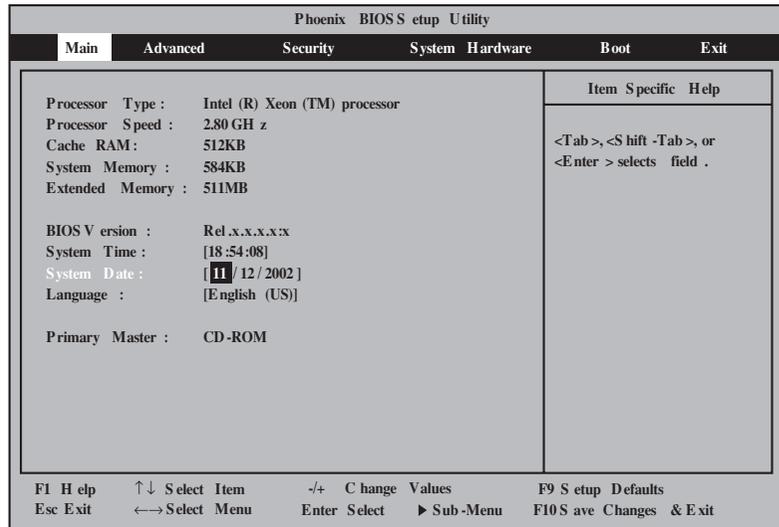
チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。別冊のユーザーズガイドを参照してください。

4. ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

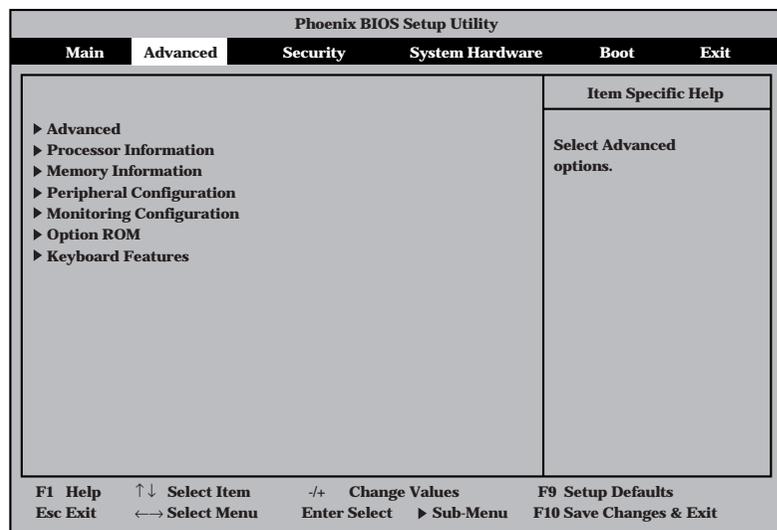
BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

<例>



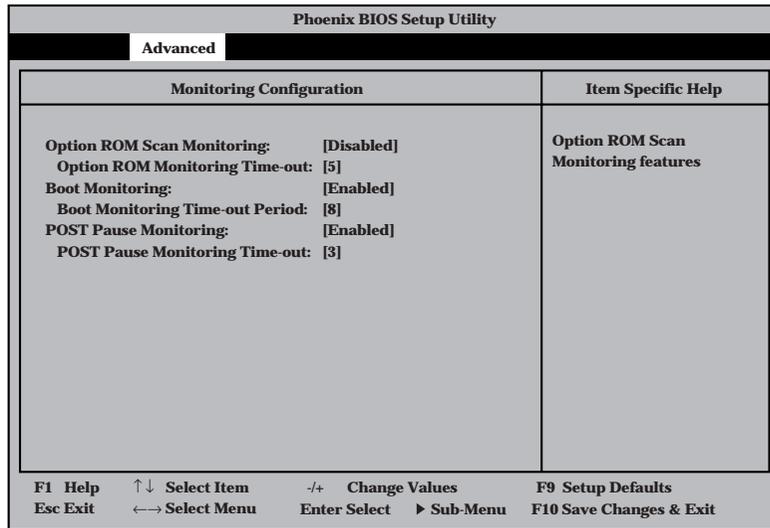
5. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Advanced」を選択する。

Advancedメニューが表示されます。



6. カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

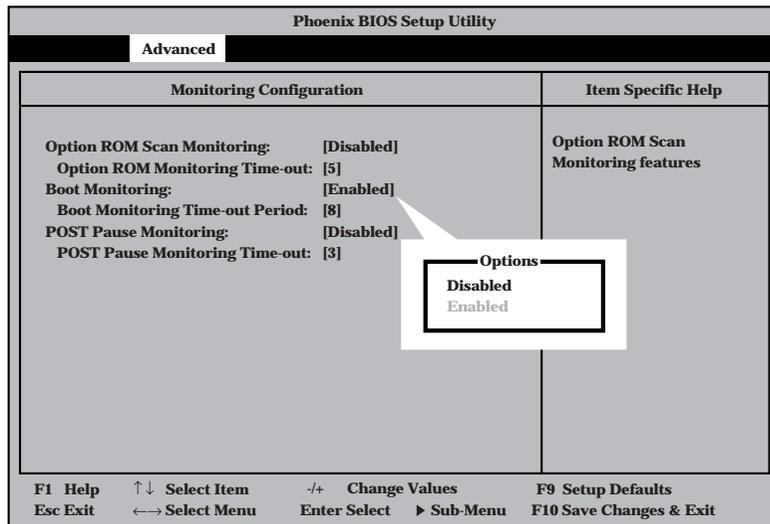


7. カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

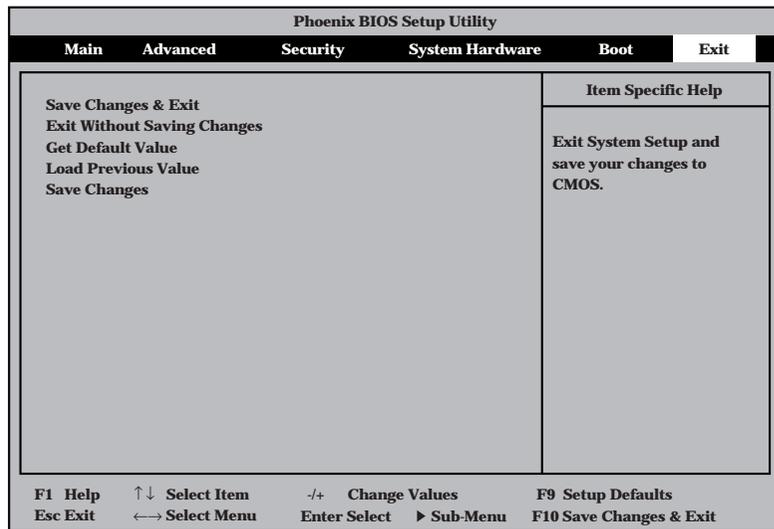
パラメータが表示されます。

8. パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

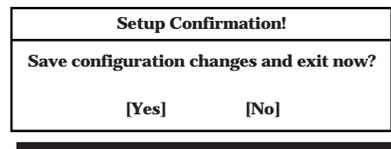
Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。



9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。
Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Save Changes & Exit」を選択し、<Enter>キーを押す。
確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。
設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。
以上で切り替えは完了です。



再起動後にWindowsのセットアップウィザード画面が表示されます。「Step C-1 Windows セットアップウィザード」に進んでセットアップを続けます。
次の手順はStep C-1(4-33ページ)以降になります。

Step C-1「Windowsセットアップウィザード」(4-33ページ)へお進みください。

OSを再インストールするときのセットアップ手順

オペレーティングシステムを再インストールする場合は以下の手順を行ってください。



「OSを再インストールするときのセットアップ手順」では、再インストールに使用するディスクの全領域がフォーマットされるため、ディスク上のデータはすべて消去されます。再インストールに使用するディスクに、OSを含むシステムパーティション以外のデータパーティションが存在する場合には、OSの再インストールを行う前に、必ずデータパーティション内の必要なデータのバックアップをとった上で、「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を開始してください。

Express5800/ftサーバPP・サポートサービスご購入のお客様は、再インストールを行う前にExpress5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページにおいて最新のft制御ソフトウェアを確認し、最新バージョンのソフトウェアをインストールしてください。

1. Step B-1～Step B-4を行う。
2. Step C-1～Step C-12を行う。

Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始

オペレーティングシステム再インストールの開始です。



Express5800/ftサーバにお客様の判断でサービスパックを使用しないでください。サービスパックを適用したい場合は、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご契約の上、Express5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、Express5800/ftサーバにサービスパックを適用してください。



Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のサービスパックへの対応状況をExpress5800/ftサーバPP・サポートサービスのWebページから確認することができます。

Windows Server 2003のインストールには、以下のものがが必要です。

- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM
本CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれるソフトウェアが最新の場合には添付されません)。
- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition 日本語版 CD-ROM
- 本装置添付のWindows Server 2003 Service Pack CD-ROM
Service Packの適用は任意です。
Service Packを適用される場合はご使用ください。
- ユーザーズガイド(セットアップ編)(本書)
- ユーザーズガイド
- RDR Key FD
RDR Key FDはRDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデルにのみ添付されます。



重要

- Express5800/ftサーバPP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のft制御ソフトウェアのリリース状況を確認し、最新バージョンのft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用してください。

- EXPRESSBUILDERと「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」を利用してOSを再インストールした場合には、ft制御ソフトウェア以外の以下の物件は、利用したEXPRESSBUILDERの物件がインストールされます。

また、システムBIOSおよびBMCファームウェアは、アップデートされません。

- ・ ESM/PRO/ServerAgent
- ・ エクスプレス通報サービス
- ・ BMCファームウェアアップデートユーティリティ

上記モジュールおよびシステムBIOS、BMCファームウェアのアップデートモジュールが存在する場合には、個別に適用する必要があります。

(重要) 個別に適用するアップデートモジュールには、モジュールの適用を実施する環境が限定されているものがあります。各モジュールの手順書を確認の上、正しく適用してください。

適用環境として、ft制御ソフトウェアの旧バージョンが必要となる場合もあります。この場合には、旧バージョンでのインストール後、最新のft制御ソフトウェアへアップデートする必要があります。

この場合には、最新のft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用したOSの再インストールは実施できません。

セットアップ手順を進める前に、OSをインストールするパーティションのサイズを決定してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
インストールに必要なサイズ = 2900MB
ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。
- Windows Server 2003 Service Pack 1のCDからWindows Server 2003 Service Pack 1をインストールする場合は、インストール時の最大使用領域「1340MB」のハードディスクドライブ空き領域が必要です。Windows Server 2003 Service Pack 1適用予定の場合に、「ダンプファイルサイズ」が「1340MB」より小さい場合には「ダンプファイルサイズ」の代わりに「1340MB」を加算する必要があります。(Windows Server 2003 Service Pack 1のインストールに必要なハードディスクドライブ領域については、Windows Server 2003 Service Pack 1のWebサイトを参照してください)



ヒント

搭載メモリサイズは、CPUモジュール1つに実装されている合計サイズです。

例えば、搭載サイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

- Windows Server 2003 Service Packを適用しない場合
 $2900\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 4192\text{MB}$
- Windows Server 2003 Service Pack 1を適用する場合
 $2900\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 1340\text{MB} = 5008\text{MB}$
SP1CDからSP1をインストールする場合の最大使用領域

となります。



ヒント

ftサーバセットアップで指定可能な最小パーティションサイズは3072MBです。自動インストールの動作のため、3072MB以上のパーティションサイズが必要なため、3071MB以下を指定することはできません。

Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備

ftサーバセットアップ開始前に、以下の2つの前準備を行ってください。前準備を行わない場合、セットアップが正しく行われません。

- ハードディスクドライブの初期化
- Express5800/ftサーバ本体の準備

ハードディスクドライブの初期化

使用済みハードディスクドライブを利用してftサーバセットアップを行う場合、以下のハードディスクドライブを初期化してください。

- PCIモジュール(グループ1用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ
- PCIモジュール(グループ2用)のスロット1に搭載するハードディスクドライブ

ハードディスクドライブ初期化手順

<RDR機能でミラーリングを行っていたハードディスクドライブの初期化方法>

ハードディスクドライブの物理フォーマットを行います。

別冊のユーザーズガイドの「システムのコンフィグレーション」-「SCSI BIOS~Fast!UTIL」を参照し、SCSI Disk Utilityで「Low-Level Format」を行ってください。

Low-Level Formatを行う際は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」-「Monitoring Configuration」-「Option ROM Scan Monitoring」を「Disabled」にしてください。設定方法については別冊のユーザーズガイドの4章「システムBIOS」を参照してください。物理フォーマット完了後、「Option ROM Scan Monitoring」は「Enabled」に戻してください。



- 「Advanced」-「Monitoring Configuration」-「Option ROM Scan Monitoring」を「Disabled」にせずにLow-Level Formatを行った場合は、物理フォーマットは正しく完了しません(途中で再起動または電源OFFされます)。「Format operation complete」が画面に表示されることで物理フォーマットが正しく完了したことを確認してください。
- 物理フォーマットに要する時間は18GBのハードディスクドライブの場合約10分です。

<ディスクの管理でミラーリングを行っていたハードディスクドライブの初期化方法>

fdiskコマンドでフォーマットを行います。

1. ROM-DOS起動ディスクを作成する。

ROM-DOS起動ディスクの作成については別冊のユーザーズガイドの「ユーティリティのインストールと操作」-「EXPRESSBUILDER」-「EXPRESSBUILDERトップメニュー」-「ツールメニュー」の「サポートディスクの作成」を参照して作成してください。

2. 初期化を行うハードディスクドライブのみをスロットにセットする。

重要

ハードディスクドライブの初期化を行う際は、ハードディスクドライブはPCIモジュール(グループ1用)のスロット1にセットしてください。

3. ROM-DOS起動ディスクをフロッピーディスクドライブに差し込んでシステムを起動する。
4. ROM-DOSが起動され、しばらくして「A:¥」とプロンプトが表示されたら、FDISKコマンドを実行する。
5. 「Do you wish to enable large disk support?[Y]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
6. <A>キーを押し、パーティションをすべて削除する。(A:Delete all partitions)
7. 「Warning!All data on fixed disk 1 will be lost!Are you sure you want to delete?[N]:」と表示されたら、<Y>キーを押す。
8. 「Press Esc to return to menu:」と表示されたら、<ESC>キーを押す。
9. <S>キーを押して、変更を保存する。(S:Save changes (and reboot))
10. 「Changes saved. Press any key to reboot....」と表示されたら、何かキーを押す。
11. 再起動が開始されたら、フロッピーディスクドライブからROM-DOS起動ディスクを抜き出し、電源をOFFにする。

これで、ハードディスクドライブの初期化は完了です。続けて「Express5800/ftサーバ本体の準備」を行ってください。

Express5800/ftサーバ本体の準備

Express5800/ftサーバの電源がOFFの状態です。以下の前準備を行ってください。

1. Express5800/ftサーバの準備を行う。

次に示す準備を行ってください。

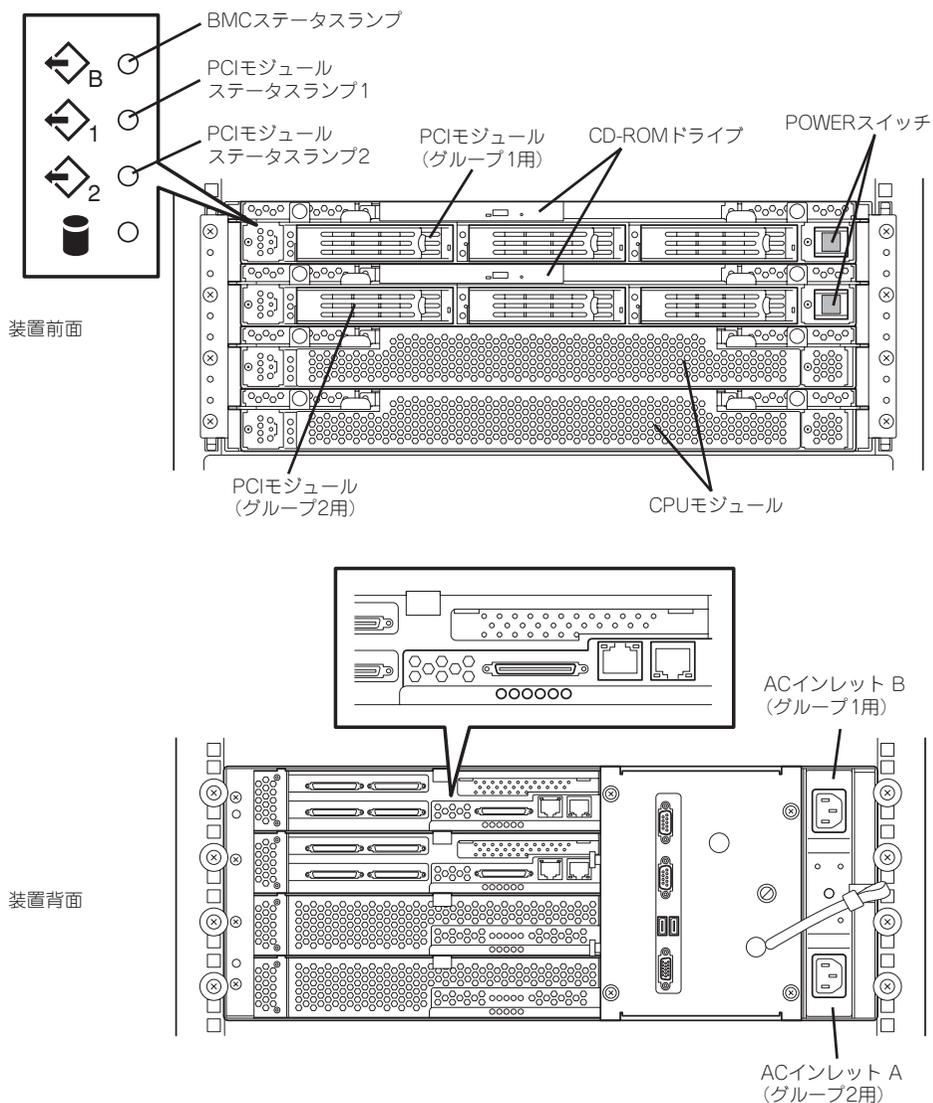
- オプションのPCIボードをすべて取り外す。
- PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)、CPUモジュール(グループ1用/グループ2用)をすべて実装する。
- ハードディスクドライブはPCIモジュール(グループ1用)のスロット1に1台のみ搭載する。
- LANケーブルをすべて取り外す。
- テープ装置などの外部SCSI機器を内蔵のSCSIコネクタから取り外す。

重要

指定のスロット以外には、すべてのモジュールのすべてのスロットに1台もハードディスクドライブを搭載しないでください。ハードディスクドライブが複数台セットされている場合には、インストール先とするハードディスクドライブを特定できません。

2. PCIモジュール(グループ1用)をプライマリにする。

作業や確認に必要な部品の位置は次のとおりです。(図はラックマウントモデルのものです。タワーモデルとは向きが異なるだけです。)



<AC電源がOFFの場合>(電源コードがコンセントに接続されていない場合)

以下の順番でExpress5800/ftサーバに電源コードを接続してください。

- (1) ACインレットB(グループ1用)に電源コードを接続する。
- (2) ACインレットA(グループ2用)に電源コードを接続する。
- (3) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (4) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが消灯していることを確認する。

重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、消灯するまで次の手順を開始しないでください。セットアップが正しく行われなくなります。

<AC電源がONの場合>(電源コードがコンセントに接続されており、本体のPOWERがOFFの場合)

- (1) PCIモジュールのPOWERスイッチのランプを確認する。
 - PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯している場合
PCIモジュール(グループ1用)がプライマリになっています。前準備は完了です。続いてStep B-3「起動監視機能の設定を無効にする」を行ってください。
 - PCIモジュール(グループ2用)のPOWERスイッチが点灯している場合
PCIモジュール(グループ1用)がセカンダリになっています。(2)以降の操作を行い、PCIモジュール(グループ1用)をプライマリにしてください。
- (2) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「消灯」していることを確認する。

重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、(3)以降の操作は行わないでください。BMCファームウェアが破壊されるおそれがあります。

- (3) ACインレットA(グループ2用)の電源コードを抜く。
- (4) PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが点灯することを確認する。
- (5) ACインレットA(グループ2用)の電源コードを接続する。
- (6) PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが消灯していることを確認する。

重要

BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、消灯するまで次の手順を開始しないでください。セットアップが正しく行われずおそれがあります。

以上で前準備は完了です。

Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする

電源ONの確認とこの後のセットアップを正しく行うための設定をします。
本装置は、起動時に本体の監視をする機能を持っています。
再インストールする際、監視機能の設定を無効にしてください。
監視機能の設定を無効にしない場合、再インストールが正しくできません。ここに記載されている手順を参照して正しく設定してください。



ここで説明する設定を行わない場合、Windowsのセットアップの画面の表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にセットアップを不正に繰り返す場合があります。セットアップに失敗すると、初めから再インストールを行わなければ使用できません。

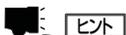


起動監視機能の切り替えなどを行うBIOSセットアップユーティリティの操作やパラメータの詳細については、別冊のユーザーズガイドを参照してください。

1. ディスプレイ装置およびExpress5800/ftサーバに接続している周辺機器の電源をONにする。



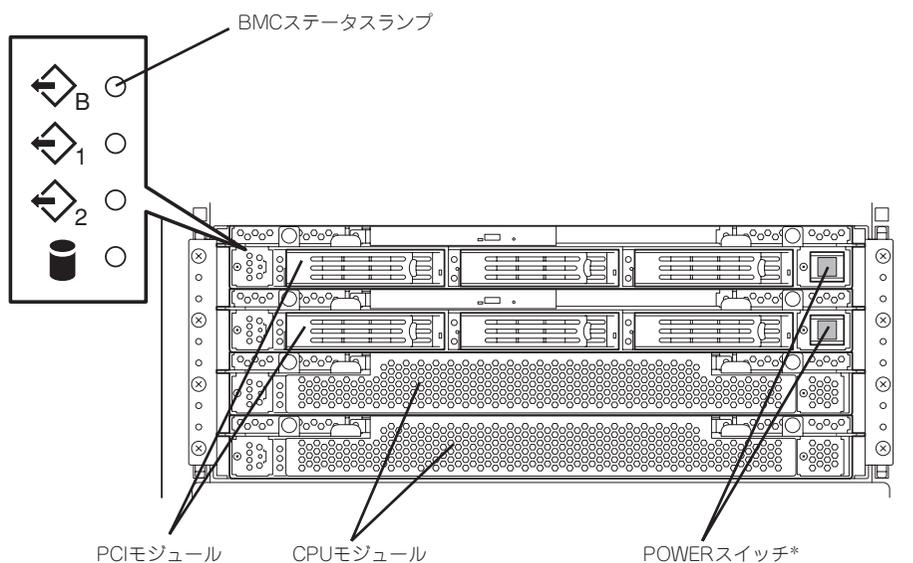
無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。



Express5800/ftサーバのAC電源をONにすると、通電後、PCIモジュール間にてBMCの同期を行います。BMCの同期が完了すると、PCIモジュールのどちらか一方のPOWERランプが点灯します。

2. ラックマウントモデルの場合はフロントベゼルを取り外す(タワーモデルの場合はフロントベゼルを開く)。

3. 両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀^B)が消灯していることを確認し、Express5800/ftサーバ前面にある点灯している方のPOWERスイッチを押す。(図はラックマウントモデルのものです。タワーモデルとは向きが異なるだけです。)



* POWERスイッチはランプが点灯している方のみ使用できます。

重要

- 「NEC」ロゴが表示されるまでは電源をOFFにしないでください。
- 電源投入時は、両系のPCIモジュールのBMCステータスランプ(◀^B)の消灯を確認後、POWERスイッチを押してください。

しばらくするとディスプレイ装置の画面には「NEC」ロゴが表示されます。

「NEC」ロゴを表示している間、Express5800/ftサーバは自己診断プログラム(POST)を実行してExpress5800/ftサーバ自身を診断しています。詳しくは別冊のユーザーズガイドをご覧ください。

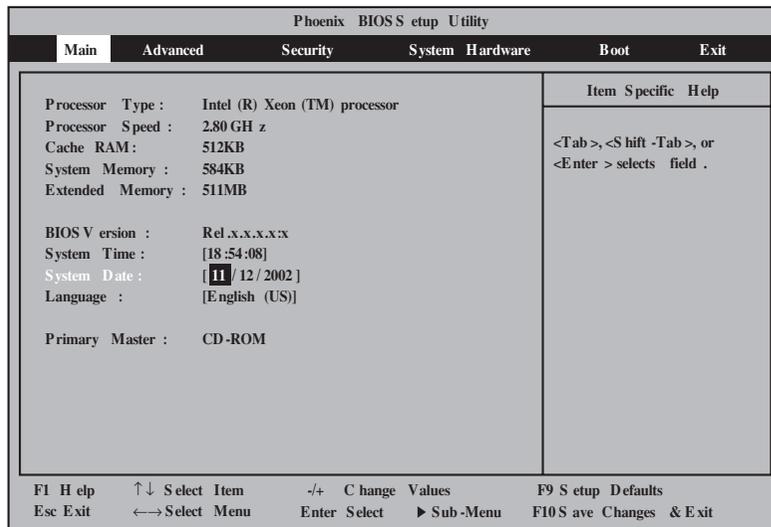
チェック

POST中に異常が見つかったらPOSTを中断し、エラーメッセージを表示します。別冊のユーザーズガイドを参照してください。

4. ディスプレイ装置の画面に「Press <F2> to enter SETUP」または「Press <F2> to enter SETUP or Press <F12> to Network」と表示されたら、<F2>キーを押す。

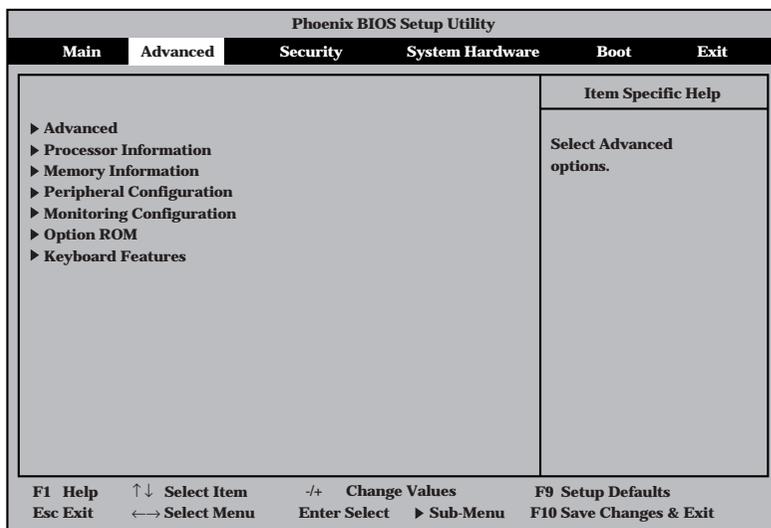
BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」が起動し、画面にはMainメニューが表示されます。

<例>



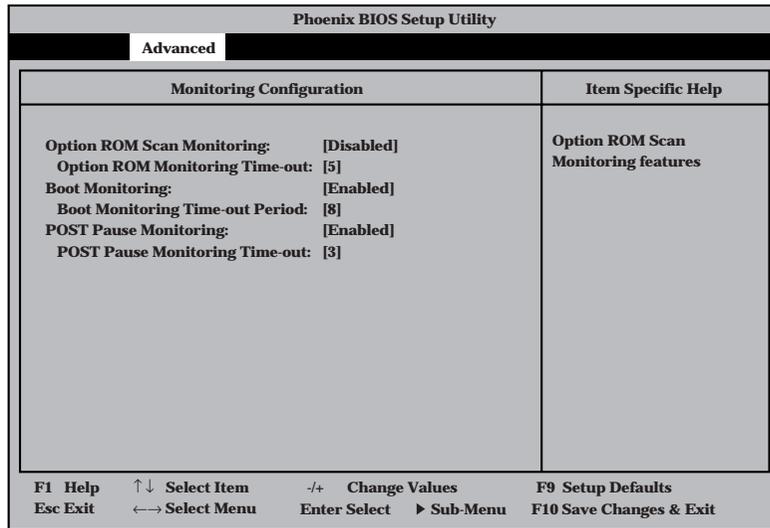
5. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Advanced」を選択する。

Advancedメニューが表示されます。



- カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Monitoring Configuration」を選択し、<Enter>キーを押す。

Monitoring Configurationサブメニューが表示されます。

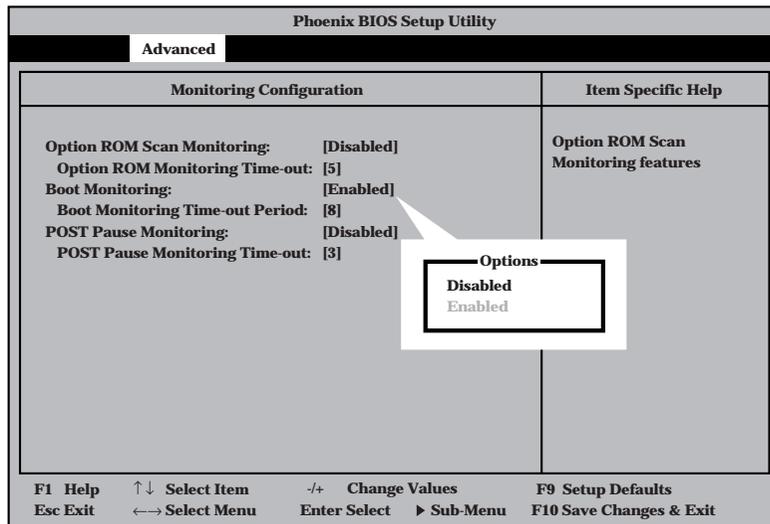


- カーソルキー (<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Boot Monitoring」を選択し、<Enter>キーを押す。

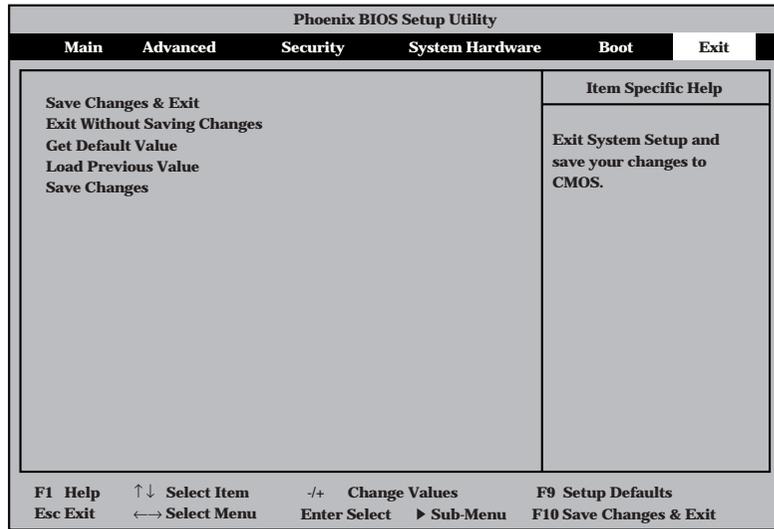
パラメータが表示されます。

- パラメータから「Disabled」を選択して<Enter>キーを押す。

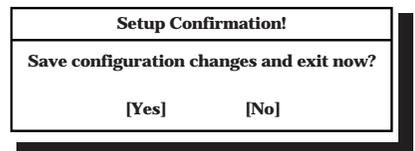
Boot Monitoringの現在の設定表示が「Disabled」になります。



9. カーソルキー(<→>キーか<←>キー)を押して、「Exit」を選択する。
Exitメニューが表示されます。



10. カーソルキー(<↑>キーか<↓>キー)を押して、「Save Changes & Exit」を選択し、<Enter>キーを押す。
確認画面が表示されます。



11. 「Yes」を選択して<Enter>キーを押す。
設定内容を保存してSETUPを終了後、再起動します。
以上で切り替えは完了です。



オペレーティングシステムの再インストールをする場合は、再インストールの準備のためにいったん本装置の電源をOFFにしてください。その後、次ページの「Step B-4 ftサーバセットアップ」に進んでセットアップを続けます。

Step B-4 ftサーバセットアップ

ftサーバセットアップを開始する前に以下の前準備を行いましたか？

チェック	
ハードディスクドライブの初期化	
<input type="checkbox"/>	ハードディスクドライブの初期化は行いましたか？
Express5800/ftサーバ本体の準備	
<input type="checkbox"/>	オプションのPCIボードはすべて取り外しましたか？
<input type="checkbox"/>	PCIモジュール（グループ1用/グループ2用）、CPUモジュール（グループ1用/グループ2用）はすべて実装しましたか？
<input type="checkbox"/>	ハードディスクドライブの搭載はPCIモジュール（グループ1用）のスロット1に1台のみとしましたか？
<input type="checkbox"/>	LANケーブルはすべて取り外しましたか？
<input type="checkbox"/>	テープ装置などの外部SCSI機器は内蔵のSCSIコネクタから取り外しましたか？
<input type="checkbox"/>	PCIモジュール（グループ1用）をプライマリにしましたか？
起動監視機能の設定	
<input type="checkbox"/>	起動監視機能の設定を無効にしましたか？

- ・ 前準備を行った場合は、下記手順に従ってftサーバセットアップを行ってください。
- ・ 前準備を行っていない場合は、以下を参照し前準備を行ってください。
 - － Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備
 - － Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする



「Step B-3 起動監視機能の設定を無効にする」(4-17ページ)の設定を行わない場合、Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動され、セットアップが正しく行われません。強制再起動後にWindowsのセットアップを不正に繰り返す場合があります。Windowsのセットアップ画面表示中に強制的に再起動された場合には、セットアップ手順を初めからやり直す必要があります。

1. Express5800/ftサーバの電源をONにする。
2. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。

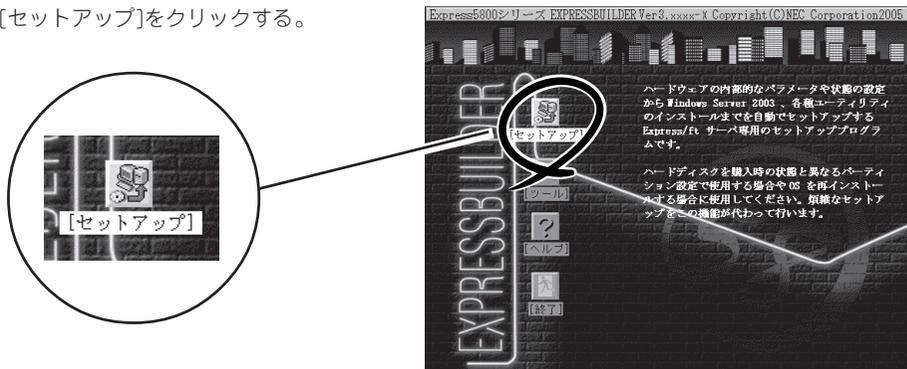
重要

ftサーバセットアップではCD-ROMはPCIモジュール(グループ1用)のCD-ROMドライブにセットしてください。

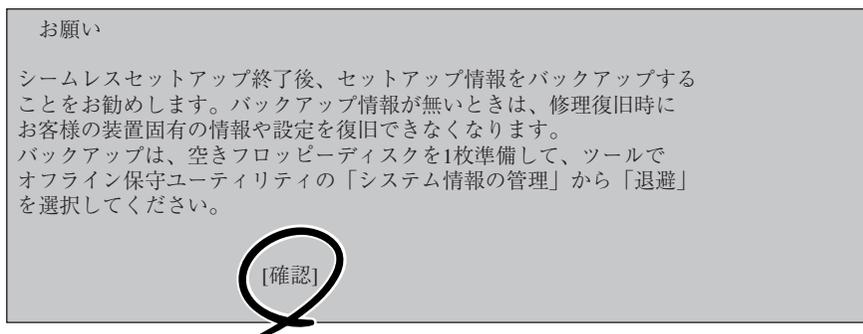
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動し、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

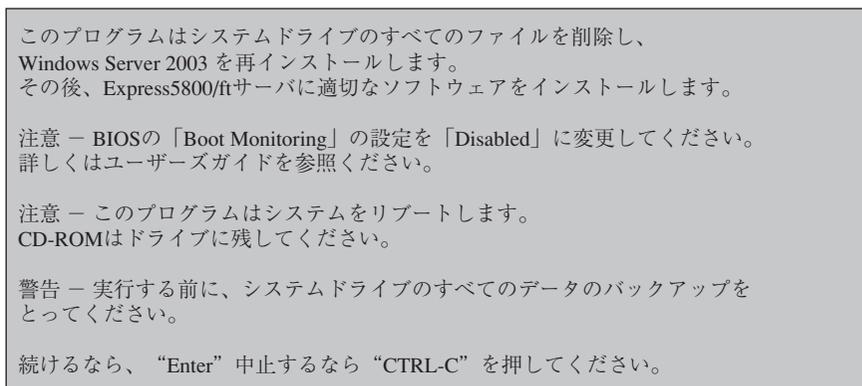
4. [セットアップ]をクリックする。



5. 次のメッセージが表示されたら、[確認]をクリックする。



6. 次のメッセージが表示されたら内容を読み、<Enter>キーを押す。



次のメッセージが表示され、ディスクが初期化されます。次のメッセージが表示されている間はディスクの初期化が行われています。しばらくお待ちください。

Express5800/ftサーバ クリアインストールを開始しました。
ディスクを初期化しています・・・

ディスクの初期化完了後、Express5800/ftサーバは自動で再起動します。再起動後、次のメッセージが表示され、ハードディスクドライブのフォーマットが始まります。



チェック

画面に一瞬、「一旦リポートを行います。」と表示されますが、サーバは自動で再起動しますので、何も操作せず、そのままお待ちください。

```
SWインストール  継続中・・・  
  
ドライブをフォーマットしています・・・  
FORMAT v7.10 (Revision4.11.1364)  
Copyright(c) 1989 2002 Datalight, Inc.  
  
Formatting 3.07G  
XX percent complete.
```

ハードディスクドライブのフォーマット完了後、CD-ROMからExpress5800/ftサーバシステムソフトウェアをシステムドライブへコピーするメッセージが表示されます。

コピーが完了するまで5分ほどお待ちください。

```
Copyright(c) 1989 2002 Datalight Inc  
  
Formatting 3.07G  
100 percent complete  
Writing out file allocation table  
Complete  
Calculating free space (this may take several minutes) . .  
Complete.  
Format complete.  
System transferred  
  
3,068.90 MB total disk space  
114,688 bytes used by system  
3,068.79 MB available on disk  
  
4,096 bytes in each allocation unit.  
785,606 allocation units available on disk  
  
Volume Serial Number is XXXX-XXXX  
  
CD-ROMからExpress5800/ftサーバシステムソフトウェアをシステムドライブへ  
コピーしています。・・・5分ほどお待ちください。
```

7. コピー完了後、次のメッセージが表示されるので、CD-ROMを取り出して<Enter>キーを押す。自動的に再起動されます。

```
Express5800/ftサーバ ソフトウェアがコピーされました。  
  
CD-ROMを抜いて、Enterキーを押下して終了してください。  
ハードディスクから再起動されます。
```



重要

再起動前に必ずCD-ROMドライブからCD-ROMを抜いてください。CD-ROMを挿入したまま再起動が開始されると、CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動されます。

8. 再起動後、次のメッセージが表示されるので、以下のように操作する。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?

- お手元に「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がある場合
「Y」を入力してください。
- お手元に「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」がなく「EXPRESSBUILDER」のみでインストールを行う場合
「N」を入力してください。

9. ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMの利用可否を再確認するメッセージが表示される。
選択が正しい場合は、「Y」、間違っている場合は「N」を入力してください。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?

または

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しません。よろしいですか[Y,N]?

10. <「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ >

次のメッセージが表示されるので「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用する場合は、CD-ROMを挿入してください。

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用しますか[Y,N]?Y
ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを利用します。よろしいですか[Y,N]?Y

ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROMを挿入し、Enterキーを押下してください。

重要

「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記のメッセージは表示されません。手順11へ進んでください。

11. 「重要：確認1」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

*** 重要：確認1 ***

- オプションのPCIボードは取り外していますか？
取り外していない場合はftサーバセットアップを中断し、
オプションのPCIボードをすべて取り外してから
再度インストールをやり直してください。
(注)オプションのPCIボードが実装されている場合、
セットアップが正常に完了しません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

12. 「重要：確認2」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

***** 重要：確認2 *****

- ハードディスクはPCIモジュール（グループ1）スロットに1台のみセットしていますか？
ハードディスクが2台以上セットされている場合はfサーバセットアップを中断し、PCIモジュール（グループ1）スロット1以外のハードディスクをすべて取り外してから再度インストールをやり直してください。
(注)ハードディスクが複数台セットされている場合には、インストール先とするディスクを特定できません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

13. 「重要：確認3」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

***** 重要：確認3 *****

- テープ装置などの外部SCSI機器は内蔵のSCSIコネクタから取り外していますか？
取り外していない場合はfサーバセットアップを中断し、外部SCSI機器を取り外してから再度インストールをやり直してください。
(注)外部SCSI機器が接続されている場合、セットアップが正常に完了しません。

インストールを中断しますか[Y,N]?

14. 「重要：確認4」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

***** 重要：確認4 *****

- PCI、CPUモジュールはすべて実装されていますか？
実装されていないPCI、CPUモジュールがある場合には、すべてのモジュールを実装してください。
すべてのモジュール実装後、何かキーを押してインストールを継続してください。

Strike a key when ready . . .

15. 「重要：確認5」メッセージが表示されるので、内容を読み、画面の指示に従って操作する。

***** 重要：確認5 *****

- LANケーブルは本体より取り外していますか？
接続されている場合はケーブルを取り外してください。
取り外し後、何かキーを押してインストールを継続してください。

Strike a key when ready . . .

16. <「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択した場合のみ >

次のメッセージが表示されるので、コピーが完了するまで3分ほど待つ。

CD-ROMからExpress5800/ftサーバ システムソフトウェアをシステムドライブへコピーしています・・・3分ほどお待ちください。



Express5800/ftサーバ ソフトウェアがコピーされました。

重要

「ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」の利用を選択しなかった場合、上記のメッセージは表示されません。手順17へ進んでください。

17. Windows Server 2003のCD-ROMを要求するメッセージが表示されるので、画面の指示に従ってWindows Server 2003 Enterprise Edition CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

Windows Server 2003のCD-ROMを差し込んでください。

Strike a key when ready...

18. OSをインストールするパーティションサイズの入力メッセージが表示されるので、OSをインストールするパーティションサイズを入力して、<Enter>キーを押す。

重要

「Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始」の「作成するパーティションサイズについて」(4-12ページ)を参照し、必ず必要最小限以上のパーティションサイズを指定してください。必要最小限未満のパーティションサイズを指定した場合は、インストールに失敗することがあります。

作成するシステムパーティションサイズを半角数字で入力してください。

注1：設定できる最小のパーティションサイズは3072メガバイトです。

1ギガバイトは1024メガバイトです。

注2：設定したサイズが実際のHDDの容量より大きい場合は、パーティションサイズはディスク全体になります。

注3：ディスク全体をシステムパーティションにする場合は、ALLと入力してください。

サイズ? (単位：メガバイト)

19. OSをインストールするパーティションサイズの入力確認メッセージが表示されるので、正しい場合は[Y]、間違っている場合は「N」を入力して、<Enter>キーを押す。

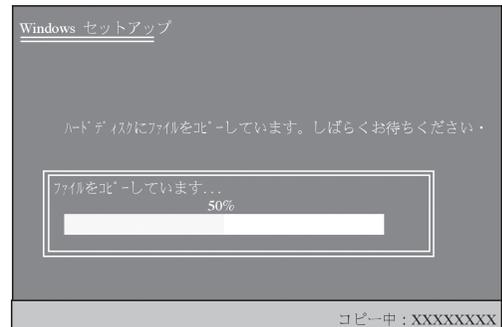
入力されたシステムパーティションサイズはXXXXです。

よろしいですか? (Y/N)

20. 次のメッセージが表示される。

システムドライブにWindows Server 2003をコピーしています・・・
20分程お待ちください

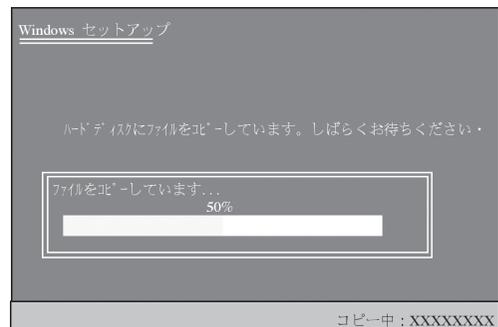
コピー完了後、Windows Server 2003
のインストールが自動的に開始されま
す。



重要

- 自動インストール中(手順20～30)は、インストール進行状況をメッセージ表示するウィンドウと各アプリケーションのインストールウィザードが表示されますが、インストールは自動的に行われます。「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」の開始画面が表示されるまで何も操作しないでください。
- 自動インストール中(手順20～30)、Express5800/ftサーバは、「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」の開始画面が表示されるまで、セットアップのために何度か自動的に再起動を行います。

21. 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。



重要

- 再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでください。
- オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示されることがありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合はDOSプロンプトが表示されて処理が停止します。この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押すか、電源をOFF/ONしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。

22. 自動的に再起動された後、ファイルシステムがFAT32からNTFSへ変更され、ファイルシステムの変更が自動的に行われるので、何も操作せず、そのまま待つ。

23. 自動的に再起動された後、セットアップの画面が表示され、自動でセットアップが進行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

次のセットアップが自動で進行されます。

[情報を収集しています]→[動的な更新]→[インストールの準備をしています]→[Windowsをインストールしています]→[インストールの最後処理を行っています]

重要

再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでください。

24. 自動的に再起動されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

重要

- 再起動時、「Press any key to boot from CD...」が表示されますが何も操作しないでください。
- オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」と表示される場合がありますが、絶対に選択しないでください。「Previous Operating System C:」を選択してしまった場合は黒い画面が表示されて処理が停止します。この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押すか、電源をOFF/ONしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。

25. 再起動後、次の画面が表示され、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

システム設定が自動で行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール

** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

システム設定中
約2分後に自動的に再起動を行います。

*** Setting [ft series environment] ***
*** Setting [ft series environment (NECHWID)] ***
*** Checking [disk space] ***

10秒後に再起動します。

重要

上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合はインストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。

26. 自動的に再起動された後、次の画面が表示され、インストールが実行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

Express5800/ftサーバ ソフトウェアのインストールが自動で行われます。

```
Express5800/ftサーバ クリアインストール

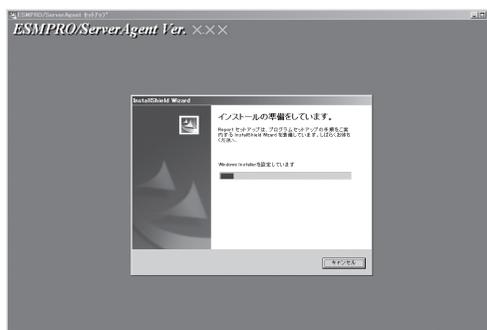
** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

*** Setting [ft series environment (Preparation)] ***
*** Setting [Timeout for non-communication time] ***
*** Installing [IPMI] ***
*** Installing [PROSET II] ***
*** Setting [Stratus Log Folder] ***
*** Copying [ft files] ***
*** Installing [SRA_RDRBOOTCONFIG] ***
*** Installing [mof files] ***
*** Installing [DLL files] ***
*** Installing [mof files] ***
*** Installing [sra files] ***
*** Installing [RDR Setting Tool] ***
*** Installing [NEC ESM PRO Agent] ***
```

重要

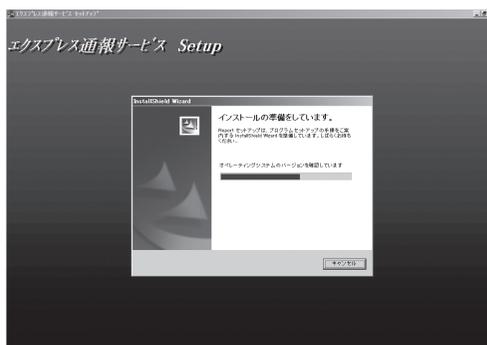
上記実行中のプログラムは絶対に終了させないでください。ウィンドウを閉じるなどして実行中のプログラムを終了させた場合はインストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能ですが、各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「OSを再インストールするときのセットアップ手順」を実施する必要があります。

27. 次の画面が表示され、ESMPRO / ServerAgentのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。ESMPRO/ServerAgentインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。

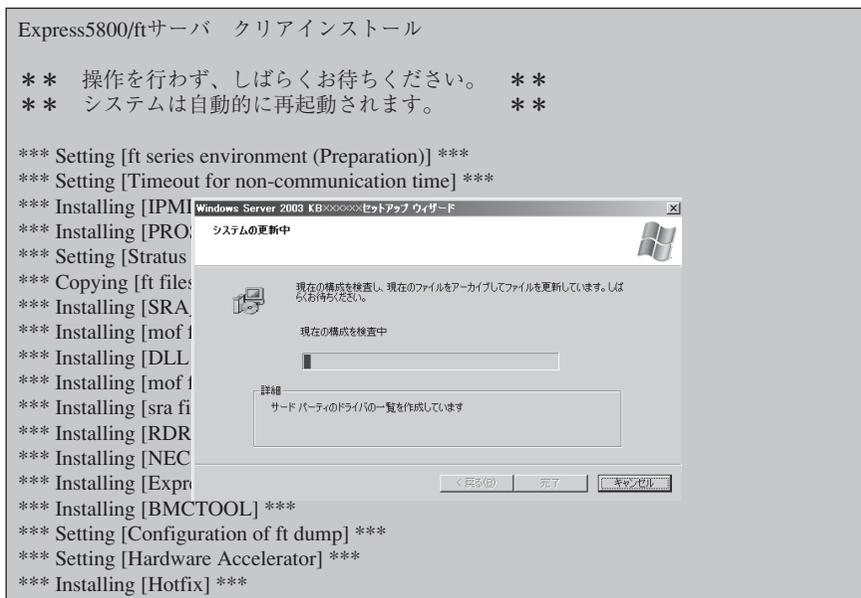


28. 次の画面が表示され、エクスプレス通報サービスのセットアップが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。

エクスプレス通報サービスSetupウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。



29. 次の画面が表示され、HotFixのインストールが開始されるので、何も操作せず、そのまま待つ。
HotFixのインストールウィザードが起動し、自動でインストールが行われます。



重要

HotFix適用中、極希に以下のアプリケーションエラーが発生する場合があります。この場合「OK」を押下し、セットアップを続行してください。



上記アプリケーションエラーが発生した場合は、ユーザズガイド(セットアップ編)「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」完了後にMicrosoft HotFixの適用を行ってください。Microsoft HotFix適用の詳細はユーザズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-19ページ)を参照してください。

30. HotFixのインストール完了後、インストールが続行されるので、何も操作せず、そのまま待つ。
Express5800/ftサーバソフトウェアのインストール完了後、自動で再起動が行われます。

Express5800/ftサーバ クリアインストール

** 操作を行わず、しばらくお待ちください。 **
** システムは自動的に再起動されます。 **

*** Setting [ft series environment (Preparation)] ***
*** Setting [Timeout for non-communication time] ***
*** Installing [IPMI] ***
*** Installing [PROSET II] ***
*** Setting [Stratus Log Folder] ***
*** Copying [ft files] ***
*** Installing [SRA_RDRBOOTCONFIG] ***
*** Installing [mof files] ***
*** Installing [DLL files] ***
*** Installing [mof files] ***
*** Installing [sra files] ***
*** Installing [RDR Setting Tool] ***
*** Installing [NEC ESM PRO Agent] ***
*** Installing [Express Report Service] ***
*** Installing [BMCTOOL] ***
*** Setting [Configuration of ft dump] ***
*** Setting [Hardware Accelerator] ***
*** Installing [Hotfix] ***
*** Setting [NECDUMP] ***
*** Setting [Memory copy (Brown copy)] ***
*** Setting [WindowsOS] ***
*** Setting [Disk] ***

10秒後に再起動します。

ftサーバセットアップは以上です。

再起動後にWindowsセットアップウィザードの画面が表示されます。

次の手順はStep C-1(次ページ)以降になります。「Step C-1 Windowsセットアップウィザード」へお進みください。

Step C-1「Windowsセットアップウィザード」(4-33ページ)へお進みください。

Step C-1 Windowsセットアップウィザード

- 再起動後、セットアップウィザードの開始画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。以降、ユーザー名などの設定画面が次々と表示されます。ウィザードに従って操作を行い、必要な設定をしてください。ウィザードの操作完了後、自動的に再起動されます。

重要

- [ライセンス契約]画面では内容をよく読んでください。同意する場合は、[同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。同意しない場合は、[同意しません]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。ただし、同意しないとセットアップは終了し、Windowsはインストールされません。
- セットアップ作業中は、CPUモジュールステータスランプ1、およびPCIモジュールステータスランプ1が赤色に点灯しますが、モジュールの故障ではありません。

セットアップ作業が完了し、各モジュールが正常に二重化された時点で、CPUモジュールステータスランプ1とPCIモジュールステータスランプ1は消灯し、CPUモジュールステータスランプ2とPCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯します。各モジュールランプの表示状態の詳細については、別冊のユーザーズガイドの「ランプ」を参照してください。
- Windows Server 2003のプロダクトIDの入力は要求されません。
プロダクトIDは自動で設定されており、入力がありません。

- 次のメッセージが表示されるので、何かキーを押して処理を続行する。

重要

画面の前面にWindowsのスタートメニューが表示されます。
背後にあるコマンドプロンプト画面をアクティブにし、何かキーを押して処理を続行してください。

```
*****  
Express5800/ftサーバ クリアインストール続行中...  
画面の指示にしたがって操作してください。  
*****  
  
続行するには何かキーを押してください...
```

- 次のメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、何かキーを押す。

```
EXPRESSBUILDERのCDをCD-ROMドライブに挿入してください。  
  
続行するには何かキーを押してください...
```

4. 次の画面が表示されるので、画面の指示に従ってCD-ROMドライブからCDを抜き、何かキーを押す。

自動的に再起動されます。

EXPRESSBUILDERのCDをCD-ROMドライブに挿入してください。

続行するには何かキーを押してください...

*** Installing [ft control software license] ***

*** Setting [Server wizard on] ***

*** Setting [ft version information] ***

Express5800/ftサーバ クリアインストールが完了しました。

BIOSの「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に

変更してからシステムの運用を行ってください。

詳しくはユーザーズガイドを参照下さい。

変更を有効にするためにシステムを再起動します。

CD-ROMドライブからCDを抜いてください。

続行するには何かキーを押してください...

重要

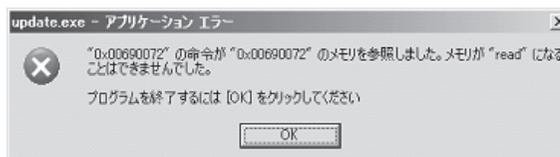
BIOSの「Boot Monitoring」の「Enabled」への設定変更は本ユーザーズガイドに従い、「Step C-10 起動監視機能の設定を有効にする」(4-53ページ)で実施してください。

5. 再起動後、管理者(Administrator)権限のユーザー名でログオンする。

重要

ftサーバセットアップにおいてHotFix適用中に以下のアプリケーションエラーが発生した場合は、ログオン後にMicrosoft HotFixの適用を行ってください。

Microsoft HotFix適用の詳細はユーザーズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-19ページ)を参照してください。



Step C-2 106キーボードの設定

SSU(サーバスイッチユニット)経由でキーボードを接続していない場合には「Step C-3 Windows Server 2003 Service Packインストール」(4-36ページ)へ進んでください。

SSU(サーバスイッチユニット)経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されます。

そこで、アップデートを行い、101キーボードとして登録されている情報を106キーボードに変更し、SSU経由で106キーボードを使用できるように情報を変更します。



- 再インストールの際にSSU経由で、キーボードを接続していた場合のみ必要となる設定です。その他の場合は設定する必要ありませんので次に進んでください。
- この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

アップデート実行手順を以下に説明します。

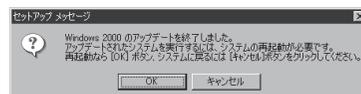
1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMまたは「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア UPDATE CD-ROM」に格納されているSsu106¥update.exeを実行する。

セットアップ画面が表示されます。

2. [OK]をクリックする。



アップデートが終了すると、システムの再起動を促すメッセージボックスが表示されます。



他にアップデートを適用する必要がない場合は、[OK]をクリックし、システムの再起動を行ってください。

他にアップデートを適用する必要がある場合は、[キャンセル]をクリックし、アップデートを継続してください。



106キーボードが106キーボードとして認識されている環境ではアップデートは行われず、処理は中断されます。

アップデートでの修正内容は、システムの再起動後に有効となります。

Step C-3 Windows Server 2003 Service Packインストール

Windows Server 2003 Service Packを適用しない場合には「Step C-4 LANの二重化を設定する」(4-37ページ)へ進んでください。

Windows Server 2003 Service Packインストール

「初めて電源をONにするときのセットアップ」、「OSを再インストールするときのセットアップ」(ftサーバセットアップ)直後は、システムにWindows Server 2003 Service Packは適用されておりません。

ユーザズガイド(セットアップ編)「Windows サービスパックの適用」(5-17ページ)を参照し、Windows Server 2003 Service Packを適用してください。



- Windows Server 2003 Service Packを適用した場合は、必ずMicrosoft HotFixの適用を行ってください。
- Windows Server 2003 Service Packを適用は後日行うことも可能です。この場合、必ずMicrosoft HotFixの適用も合わせて行ってください。

Microsoft HotFixインストール

Windows Server 2003 Service Packを適用した場合は、必ずMicrosoft HotFixの適用を行ってください。

ユーザズガイド(セットアップ編)「Microsoft HotFixの適用」(5-19ページ)を参照し、Microsoft HotFixを適用してください。

Step C-4 LANの二重化を設定する

Express5800/ftサーバでは、PCIモジュール上に標準で搭載されている「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」(100Base)、および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」(1000Base)を使用してLANの二重化を構築します。

使用しない(ケーブルを接続しない)イーサネットアダプタについては、コントロールパネルの[ネットワーク接続]などで無効に設定してください。

なお、無効にするイーサネットアダプタでLANの二重化を解除してから無効の設定を行ってください。

無効の設定を行っておらず、イーサネットアダプタにケーブルを接続していない場合、ESMPRO/ServerAgentではそのポートを故障(媒体なし)と判断し、データビューアの[FtServer]—[PCIモジュール]—[イーサネットボード]の状態色は赤(異常)、また総合ビューアのサーバの状態色も赤(異常)となります。



この設定を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

1. 以下のどちらかのスタートメニューモードを使用し[Intel PROSet II]ダイアログボックスを表示させる。

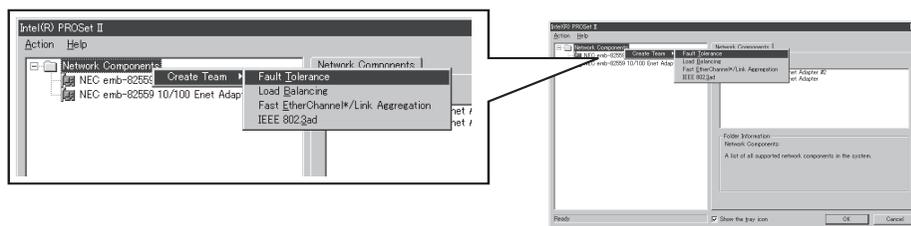
標準のスタートメニューモード

[スタート]メニューから[コントロールパネル]—[Intel PROSet II]をクリックする。

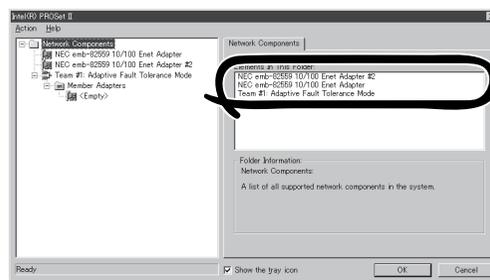
クラシックスタートメニューモード

- ① [スタート]メニューから[設定]—[コントロールパネル]をクリックする。
- ② [Intel PROSet II]アイコンをダブルクリックする。

2. NetWork Component Treeから[NetWork Components]を選択してポップアップメニューから[Create Team]—[Fault Tolerance]を選択する。

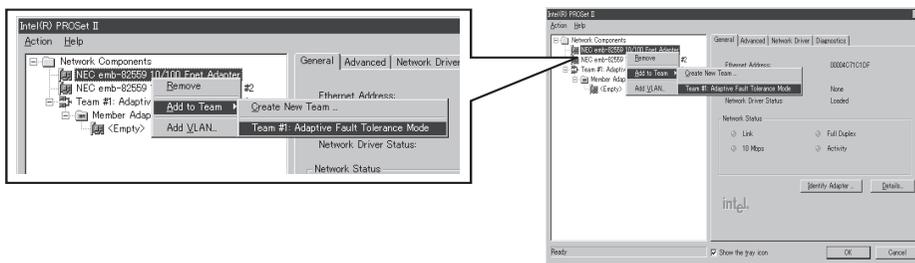


NetWork Component Treeに[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]が追加されます。



- NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を選択し、ポップアップメニューを表示させて[Add to team]—[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]を選択してアダプタを追加する。

追加後、警告メッセージが表示されますが、問題ありません。そのまま[OK]をクリックしてください(まだ1つしか追加していないために表示されるメッセージです)。



- 手順3と同じように、NetWork Component Treeから[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter #2]を選択し、ポップアップメニューを表示させて[Add to team]—[Team #1: Adaptive Fault Tolerance Mode]を選択してアダプタを追加する。

重要

それぞれのアダプタに対し、[Preferred Primary]、[Preferred Secondary]は指定しないでください。

- 「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」(1000Base)についても二重化設定を行う。同じように手順2~4を行ってください。その際、[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」に読み替えて選択してください。

また、手順2で、[Fault Tolerance]だけではなく、[Load Balancing]の設定をすることもできます。その場合は、[Team #X:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。

重要

[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]は、Load Balancingが設定できません。Fault Toleranceのみ設定可能です。

- 転送速度をハブと同一の値に設定する。

転送速度の設定には、PROSet IIを使用します。

PROSet IIの左側のツリーにて変更するアダプタを選択してください。

選択可能なアダプタは、「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」です。

100Base/1000Base それぞれ2ポートずつ、計4ポート分、全て設定してください。

「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」の場合

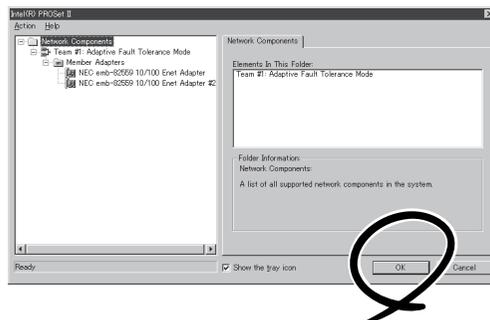
[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]にて設定を行います(転送速度を固定に設定する)。ハブ側の設定も転送速度を固定にしてください。

「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」の場合

[Link Config]タブをクリックし、[AutoNegotiation]にて「Enabled」を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度を1つだけチェックする)。

7. [OK]をクリックする。

しばらくすると、[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスが閉じ、設定が有効になります。



重要

- [デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示されることがあります。表示された場合は[はい]をクリックしてください(複数回表示されます)。
- 二重化設定を終了後、[ネットワークとダイヤルアップ接続]または[デバイスマネージャ]ダイアログボックスに「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」が表示されるようになります。このため100Base/1000Base合わせて6個のアダプタが表示されるようになります。このアダプタの「状態」を「無効」に設定しないでください。再度、「有効」に戻すと、システムが不安定になり、再起動が必要になる場合があります。
- IPアドレスは、LANの二重化設定後、「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」に設定してください。「Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter」および「Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter」にはIPアドレスを設定しないでください。
- 二重化設定(Team)した際はハブを使用する必要があります。AFT機能を使用する場合、リピータ・ハブ、スイッチング・ハブのどちらも使用できます。ALB機能を使用する場合は、スイッチング・ハブを使用してください。
- LANケーブルはプライマリ、セカンダリ両方のPCIモジュールに接続してください。二重化設定を終了後、片方のLANケーブルを抜くとPCIモジュールの二重化が外れてしまいます。もしLANケーブルを抜いてPCIモジュールの二重化が外れてしまった場合、再度LANケーブルを接続すれば二重化状態に戻ります。
- 100Baseアダプタに接続するハブは、転送速度を固定に設定できるものを使用してください。

Step C-5 ディスクの二重化を設定する

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、「Step C-7 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-48ページ)へ進んでください。
Express5800/ftサーバ出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっております。

Express5800/ftサーバでは、「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」によりディスクの二重化を行い、データの保全を図ります。
各手順を参照し、必ずディスクの二重化を設定してください。



重要

- 本操作(ディスクの二重化設定)は、「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」により実施してください。その他のディスク管理ツール(VERITAS Storage Foundationなど)をご利用予定の場合には、「Step C-11 障害処理のためのセットアップ」以降でインストールを行ってください。
本操作を「ディスクの管理」または「RDR(Rapid Disk Resync)機能」以外で実施した場合には、システムの再起動時にミラーの同期外れが発生することがあります。
- 「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、ディスクの二重化は設定してありますので、この作業は必要ありません。「Step C-7 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-48ページ)へお進みください。
- RDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデル以外の場合
「ディスクの管理によるディスク二重化手順」(4-40ページ)へお進みください。
- RDR(Rapid Disk Resync)機能対応モデルの場合
「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク二重化手順」(4-43ページ)へお進みください。

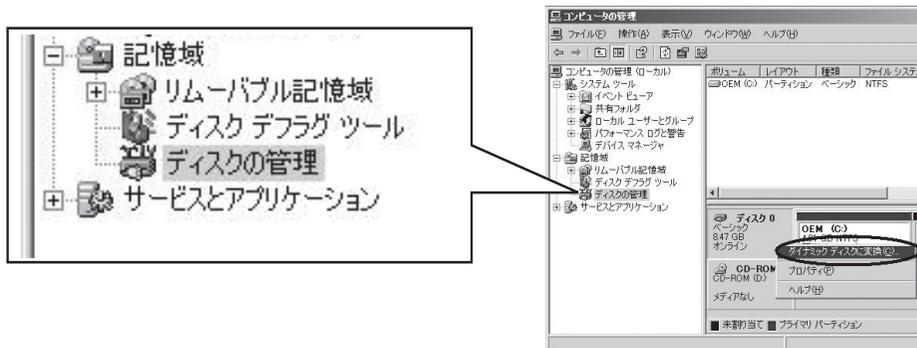
ディスクの管理によるディスク二重化手順



重要

- この手順を実行するには、管理者またはAdministratorグループのメンバとしてログインしなければなりません。
 - OSインストール時だけでなく、以降パーティションを作成する際も必ず同様にミラーリングを行ってください。
 - ミラーのためのディスクは、必ずシステムパーティションがあるディスクをダイナミックにアップグレード後に対応したスロットにセットしてください。アップグレードする前にディスクはスロットにセットしないでください。
 - ミラーを設定するディスクは、ディスクのターゲットIDが同一のもので設定してください。詳細については、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照してください。
1. [スタート]－[管理ツール]－[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
 2. コンソールツリーで[記憶域]配下の[ディスクの管理]をクリックする。

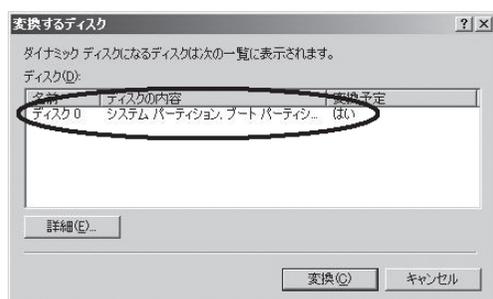
- 右パネルにハードディスクドライブの一覧を表示させ、システムがインストールされているディスクを右クリックし、[ダイナミックディスクに変換]をクリックする。



- 変換するディスクがシステムをインストールしたディスクであることを確認し、[変換]をクリックする。

ダイナミックにアップグレードする際、「前のWindowsを起動できない」や「強制的にマウントを解除」のメッセージが表示されますが、[はい]をクリックして、再起動してください。

その場合、複数回再起動を要求された場合は、指示に従って再起動をしてください。



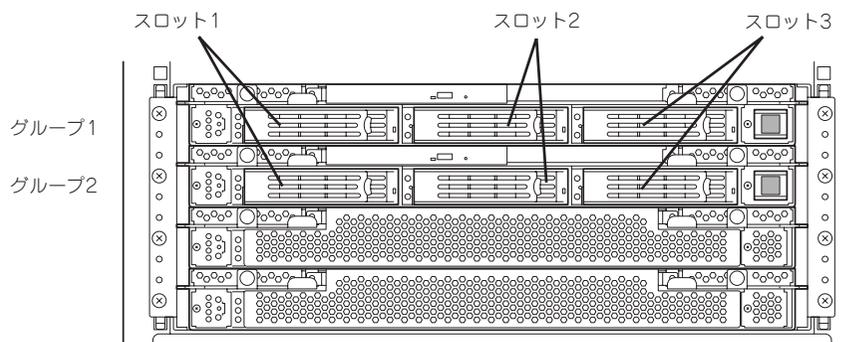
- 再起動後、再び[ディスクの管理]を表示し、ミラーボリュームを作成するためのディスクをセットする。

重要

ディスクのステータスが「初期化していない」の場合には、「初期化していない」ディスクで右クリックして初期化を実施してください。

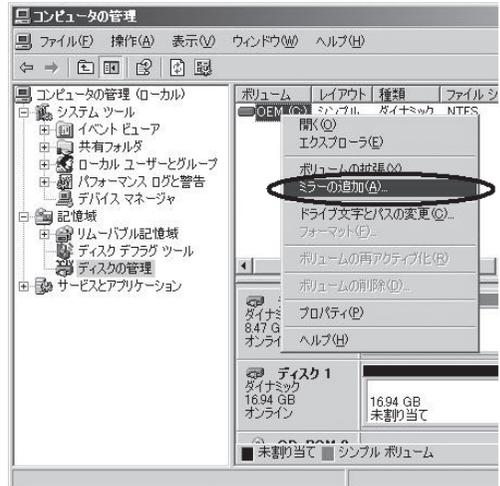
[異形式]と表示された場合は、[ベーシックディスクに戻す]を実行した後、[ダイナミックディスクに変換]を実行してください。

ミラーリングするディスクは必ず対応したスロットにセットする必要があります。詳細については下図を参照してください。



ミラーリング処理に対応するスロット

6. セットしたディスクがダイナミックディスクではない場合は、ディスクを右クリックし、「ダイナミックディスクに変換」を実行する。
7. ミラーを作成するダイナミックディスクのボリュームを右クリックし、[ミラーの追加]をクリックする。



重要

- [ミラーの追加]をクリックすると、[論理ディスクマネージャ]ダイアログボックスが表示されますが問題ありませんので、[OK]をクリックしてください。
- ミラーの生成中に再起動するとミラーが完了しません。ミラーの処理が完了するまでは再起動しないでください。



ヒント

ミラーの生成には、18GBのハードディスクドライブで約37分かかります。

8. ミラーリングが始まったことを確認してください。

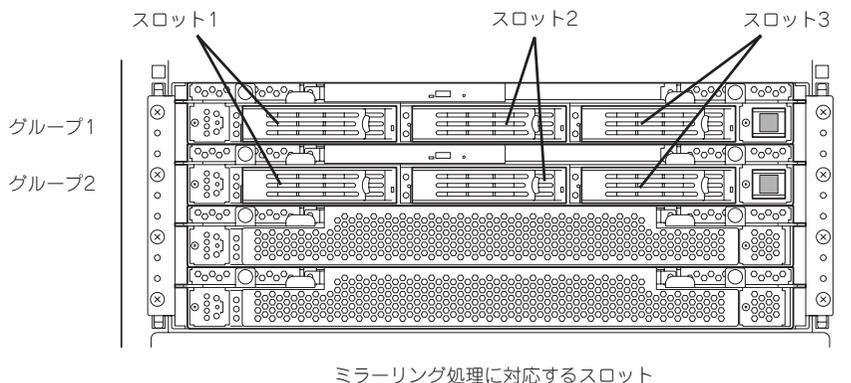
ディスク	パーティション	容量	状態
ディスク 0 ダイナミック 16.94 GB オンライン	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	12.94 GB	未割り当て
	再同期中: (1%) (システム)		
ディスク 1 ダイナミック 16.94 GB オンライン	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	12.94 GB	未割り当て
	再同期中: (1%) (システム)		

9. 表示が「再同期中」から「正常」に変化したらミラーは完了です。

ディスク	パーティション	容量	状態
ディスク 0 ダイナミック 16.94 GB オンライン	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	12.94 GB	未割り当て
	正常 (システム)		
ディスク 1 ダイナミック 16.94 GB オンライン	OEM (C:) 4.00 GB NTFS	12.94 GB	未割り当て
	正常 (システム)		

RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク二重化手順

RDR機能対応モデルでは、ft制御ソフトウェアのRDR機能によりディスク単位の二重化を行います。RDRを設定することで、下図表のように対応するスロットのディスク同士で二重化され、Windows(ディスクの管理やデバイスマネージャ等)からは1つの仮想ディスクとして認識されます。



対応するスロット	RDR Utilityでの仮想ディスク名
PCIモジュール#1 スロット1⇔PCIモジュール#2 スロット1	RDR Virtual Disk 1
PCIモジュール#1 スロット2⇔PCIモジュール#2 スロット2	RDR Virtual Disk 2
PCIモジュール#1 スロット3⇔PCIモジュール#2 スロット3	RDR Virtual Disk 3

* 上表においてPCIモジュールの名称は以下のように対応しています。
PCIモジュール (グループ1用) - PCIモジュール#1
PCIモジュール (グループ2用) - PCIモジュール#2



- この手順を実行するためには、管理者またはAdministratorグループのメンバとしてログインしなければなりません。
- RDRはExpress5800/ftサーバの内蔵スロットに挿入したベーシックディスクにのみ設定できます。ダイナミックディスクには設定できません。
- RDRを設定するディスクは、ディスクの全体容量が同一のものを使用してください。
- OSインストール時だけではなく、PCIモジュールにディスクを増設した場合は、必ず同様にRDRを設定してください。

RDRキーの登録

はじめてRDR機能を使用する場合は、以下の手順でキーを登録してください。

1. 装置添付の「RDR Key FD」をフロッピーディスクドライブに挿入する。
2. [スタート]-[すべてのプログラム]-[アクセサリ]-[エクスプローラ]からエクスプローラを起動し、FD内の「RDRreg.bat」をダブルクリックする。
3. コマンドプロンプトに「RDR registration has completed.」メッセージが表示され、RDR機能が使用可能となる。
4. コマンドプロンプト上で何かキーを押し、ウィンドウを閉じる。

ディスク二重化手順

1. [スタート]－[すべてのプログラム]－[RDR]－[RDR Utility]をクリックし、RDR Utilityを起動する。



ヒント

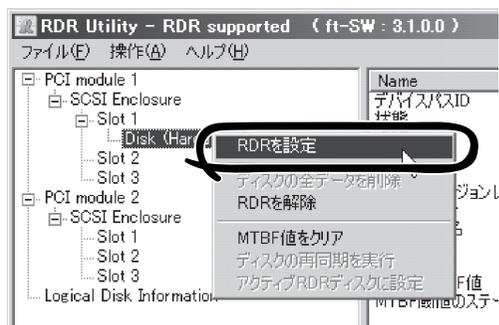
- RDR Utilityの詳細については別冊のユーザーズガイドの「3 Windowsの操作と設定」－「ディスクの操作」－「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスク操作」を参照してください。
- RDR Utilityの表示は自動更新されません。ディスクの挿抜やRDRの設定などディスクに関する操作を行った場合は、その都度、メニューから[操作]－[更新]をクリック(または、F5キー押下)し、表示を更新してください。
- RDR Utilityでは、PCIモジュールの内容は以下のように対応しています。
 - ・ PCIモジュール(グループ1用)－PCI module1
 - ・ PCIモジュール(グループ2用)－PCI module2

2. RDR Utilityの左ページからシステムがインストールされているディスク(PCIモジュール(グループ1用)のスロット1)を右クリックし、[RDRを設定]をクリックする。



ヒント

ディスクの状態によりRDRの設定に時間がかかり、RDR Utilityが数分間停止した状態となる場合がありますが、異常ではありません。そのままお待ちください。



重要

システムパーティション、またはアンマウントできないパーティションを含むディスクにRDRを設定した場合、以下のポップアップが表示され、[はい]をクリックすると、2分後に自動で再起動されます。再起動後に手順3移行を実施してください。



3. 二重化するディスクに対応するスロット(この場合は、PCIモジュール(グループ2用)のスロット1)に挿入する。

ディスク挿入後、挿入したディスクにRDRが自動で設定され、同期が開始します。

重要

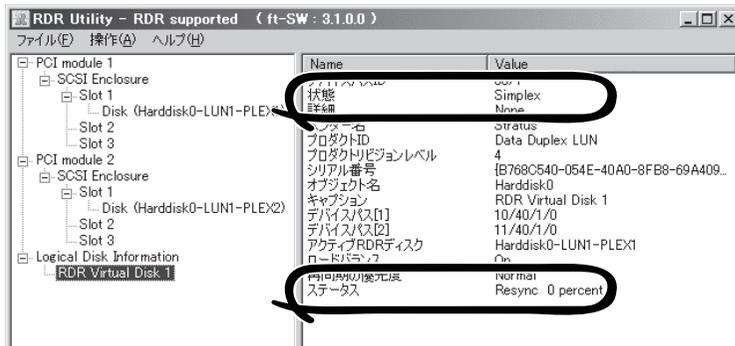
挿入するディスクは、同期もとのディスクと同容量で、新品もしくは物理フォーマットしたディスクを使用してください。それ以外のディスクの場合、正常に二重化されません。

- * 物理フォーマットは、別冊のユーザズガイドの「4 システムのコンフィグレーション」-「SCSI BIOS~Fast!UTIL~」を参照し、SCSI Disk Utilityで「Low-Level Format」を行ってください。Low-Level Formatを行う際は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」-「Monitoring Configuration」-「Option ROM Scan Monitoring」を「Disabled」にしてください。設定方法については、別冊のユーザズガイドの「4 システムのコンフィグレーション」-「システムBIOS」を参照してください。

4. ディスクの同期が開始され、DISKランプおよびRDR Utilityの表示が以下の状態に変化することを確認する。

■ 同期中

	DISKランプ	RDR Utility	
		状態	ステータス
同期元ディスク	アンバー点灯	Simplex	—
同期先ディスク	グリーン点灯	Syncing	—
RDR Virtual Disk	—	Simplex	Resync x percent (x=0, 10, 20, …, 90)

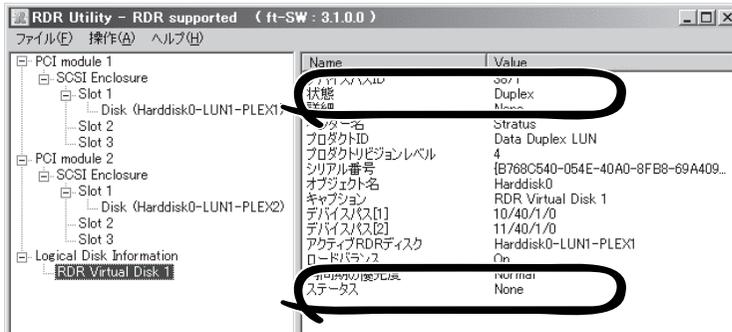


重要

- 同期に必要な時間は、ディスク上に存在するパーティションサイズにより異なります。18GBのパーティションの場合、約16分です。パーティションがない場合、RDR設定後、すぐに同期が完了し同期完了時の状態に変化することがあります。
- 同期中にシステムを再起動するとディスクの二重化が完了しません。同期処理が完了するまで再起動しないでください。

■ 同期完了

	DISKランプ	RDR Utility	
		状態	ステータス
同期元ディスク	グリーン点灯	Duplex	—
同期先ディスク	グリーン点灯	Duplex	—
RDR Virtual Disk	—	Duplex	None



🔑 重要

- RDRを設定し二重化したディスクに新たにパーティションを作成した場合、作成したパーティション領域の同期が自動で行われます。
- RDRを設定した二重化したディスクをダイナミックディスクに変換した場合、変換時に同期されていない全領域(パーティションが存在しない領域)の同期が行われます。
- 電源ボタン押下などによりWindowsを正常に終了せずシステムを停止した場合、システム再起動後、同期していた全ディスク領域の再同期が行われます。

Step C-6 各種ソフトウェアのアップデート

「初めて電源をONにするときのセットアップ手順」を実施している場合は、「Step C-7 各種オプション装置の接続・設定を行う」(4-48ページ)へ進んでください。
Express5800/ftサーバ出荷時点では、お客様がすぐに使用できるように以下の設定は実施済みとなっております。

以下に従って、必要なアップデートモジュールを適用します。

<「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(ver:n.n) UPDATE CD-ROM」を利用した場合>

「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」を利用してインストールした場合には、CD-ROM内の「ft制御ソフトウェア(Ver:n.n).pdf」を参照してすべてのアップデートモジュールを適用してください。

ただし、以下については「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」より最新のアップデートモジュールが自動適用されていますので、ここでの個別のアップデートモジュールの適用は不要です。

ー ft制御ソフトウェア(Ver:n.n)アップデートモジュール

ESMPRO/ServerAgentはftサーバセットアップで自動インストールされますが、最新モジュールの適用は行われません。「Express5800/ftサーバシリーズ ft制御ソフトウェア(Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」から個別にアップデートモジュールを適用する必要があります。

Step C-7 各種オプション装置の接続・設定を行う

本体装置へ接続するオプションPCIボードおよび周辺装置がある場合は、本体の電源をOFFにし、別冊のユーザーズガイドの「PCIボード」および装置の説明書に従って接続してください。



「初めて電源をONにするときのセットアップ」を実施している場合は、「ビルド・トゥ・オーダー」以外で購入されたオプションのPCIボード及び周辺装置がある場合にそれらの接続を行います。

搭載メモリが4GBを超える場合には、BOOT.INIファイルに/PAEスイッチを指定する必要があります。/PAEスイッチを指定しなかった場合、Windowsシステムは、4GBを超える領域を利用しません。

指定の方法については、マイクロソフト サポート技術情報を確認してください。

BOOT.INIファイルはC:¥に存在します。エクスプローラの「フォルダオプション」-「表示」タブ内の「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択することでエクスプローラ上に表示されます。

BOOT.INIが以下のような場合の修正例を示します。

(修正前)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect
```

(修正後)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect /PAE
```

LANおよびディスクを増設した場合は、二重化設定を行います。詳しい手順については「Step C-4 LANの二重化を設定する」(4-37ページ)および次の「Step C-8 ボリュームの作成」を参照してください。

Step C-8 ボリュームの作成

Express5800/ftサーバでは、モデルによってディスクまたはボリューム単位でミラーを行う必要があります。新たにパーティション/ボリュームを作成した場合は、以下の手順でミラーを行ってください。



- パーティション/ボリュームの作成方法については、Windowsのオンラインヘルプを参照してください。
- パーティション/ボリュームの作成は運用が開始された後でも可能です。

RDR機能対応モデル以外の場合

ブートボリューム以外に新規にボリュームを作成する場合には、別冊のユーザーズガイドの「3 Windowsの操作と設定」-「ディスクの操作」-「ディスクの管理によるディスク操作」-「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成後、ボリューム単位のミラーを行います。ボリュームのミラー方法については、「Step C-5 ディスクの二重化を設定する」-「ディスクの管理によるディスク二重化手順」(4-40ページ)を参照してください。

RDR機能対応モデルの場合

内蔵ディスクはRDR機能によってディスク単位のミラーを行います。RDRを設定し二重化したディスクに新規にパーティション/ボリュームを作成した場合、その領域のミラーが自動で行われます。パーティション/ボリューム単位でミラーを行う必要はありません。RDR機能によるディスクのミラー方法については、「Step C-5 ディスクの二重化を設定する」-「RDR(Rapid Disk Resync)機能によるディスクの二重化手順」(4-43ページ)を参照してください。

Step C-9 ESMPRO/ServerAgent向けのネットワークの設定

ESMPRO/ServerAgent は、Express5800/ftサーバを連続稼働させるために、必要であり、本装置購入時にすでにインストールされております。また、再インストールの際には自動的にインストールされます。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはSNMPの設定が必要です。

<SNMPサービスの設定変更>

1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
3. サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。
「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

重要

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを入力します。
 - ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先のESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

重要

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - 「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、ESMPRO/ServerAgentをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

重要

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

7. ネットワークの設定を終了する。

重要

- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。
- ボリュームの作成はシステムの運用が開始された後でも可能です。ボリュームを作成する場合には、別冊のユーザーズガイドの「構築可能なディスク構成について」を参照し、ボリュームを作成します。
- ファイアウォールの設定

ファイアウォールの設定が有効となっている場合、SNMPが使用するポート(161/UDP)がブロックされます。

このとき、ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは通信できなくなり、サーバの監視ができません。

以下の手順でポートの開放設定を行ってください。

<Windows Server 2003(サービスパック適用済み)の場合>

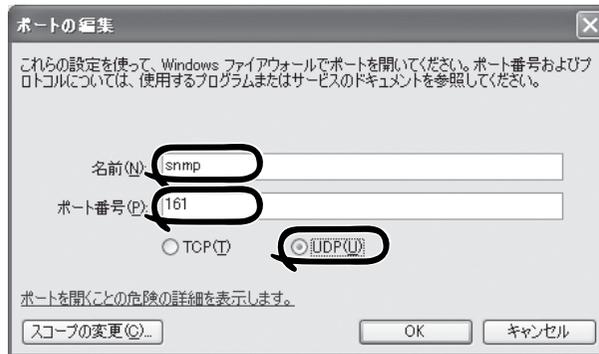
1. [コントロールパネル]から[Windows ファイアウォール]をダブルクリックする。

[Windows ファイアウォール]のダイアログボックスが表示されます。

<次ページへ続く>

重要

2. [例外]タブの[ポートの追加]をクリックする。



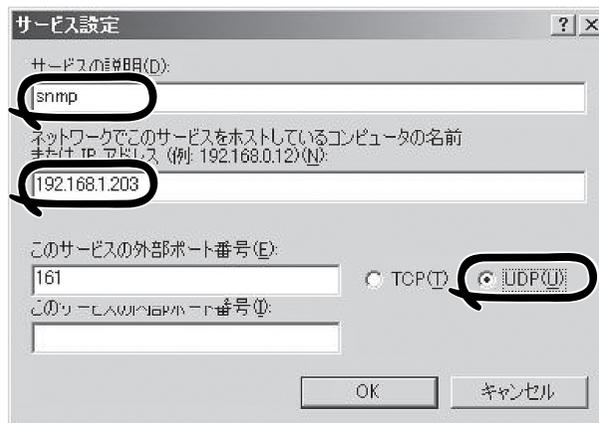
名前 : snmp
ポート番号 : 161
UDP : 選択

[OK]をクリックしてください。

3. [Windows ファイアウォール]のダイアログボックスを閉じる。

<Windows Server 2003(サービスパック未適用)の場合>

1. [コントロールパネル]から[ネットワーク接続]をダブルクリックする。
2. 使用する接続を右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
3. [詳細設定]タブの[設定]ボタンをクリックする。
4. [サービス]タブの[追加]ボタンをクリックする。



サービスの説明 : snmp
ネットワークでこのサービスを
ホストとしているコンピュータ
の名前またはIPアドレス : コンピュータの名前またはIPアドレスを入力
このサービスの外部ポート番号 : 161
UDP : 選択

[OK]をクリックしてください。

5. [ネットワーク接続]ウィンドウを閉じる。

Step C-10 起動監視機能の設定を有効にする

「起動監視機能の設定を無効にする」で切り替えた「Boot Monitoring」の設定を有効にします。Step A-2、もしくはStep B-3「起動監視機能の設定を無効にする」(4-5ページ、もしくは4-17ページ)を参照して「Enabled」に変更してください。

Phoenix BIOS Setup Utility	
Advanced	
Monitoring Configuration	Item Specific Help
Option ROM Scan Monitoring: [Disabled] Option ROM Monitoring Time-out: [5] Boot Monitoring: [Enabled] Boot Monitoring Time-out Period: [8] POST Pause Monitoring: [Enabled] POST Pause Monitoring Time-out: [3]	Option ROM Scan Monitoring features
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save Changes & Exit	

Step C-11 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express5800/ftサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

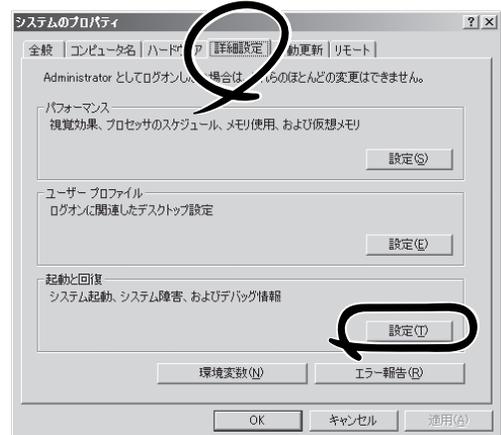


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



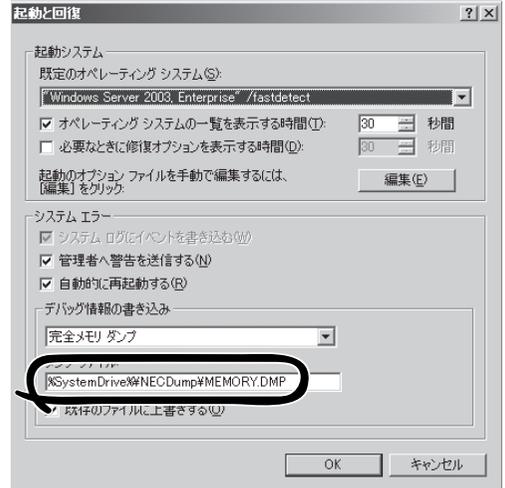
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

本装置では、インストール時の既定値として以下のように設定されています。既定値への格納を推奨します。

%SystemDrive%¥NECDump¥
MEMORY.DMP

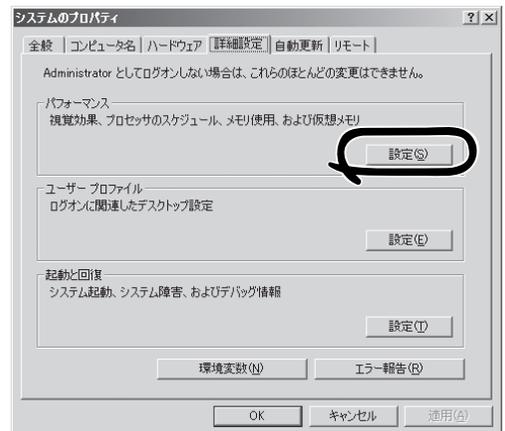


重要

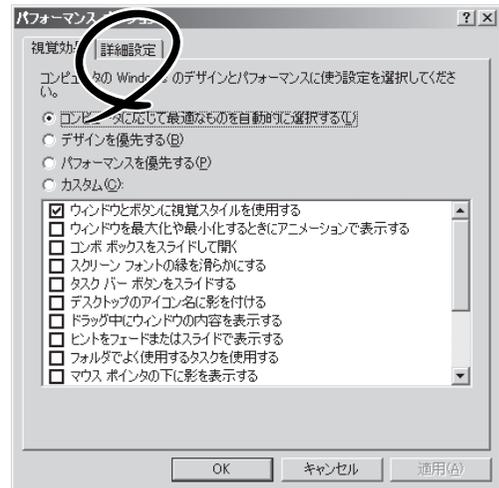
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

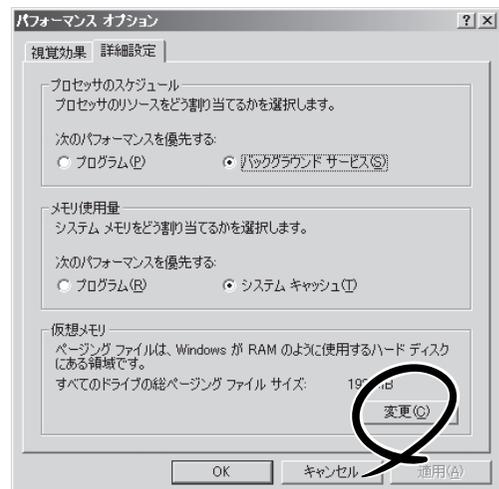
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



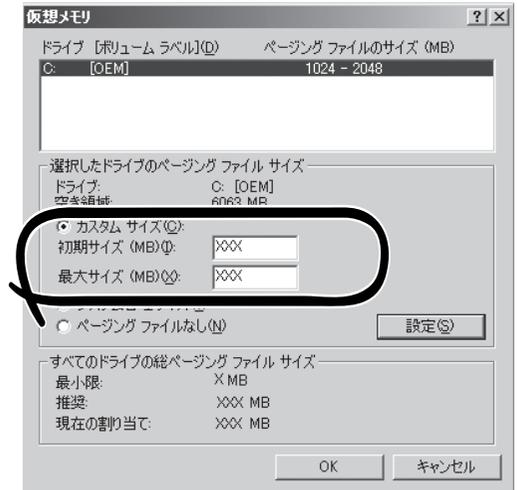
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。



重要

- 必ずOSパーティションに[推奨]値以上のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
 - [推奨]値については、「作成するパーティションサイズについて」(4-12ページ)を参照してください。
 - 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にメモリダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
 - メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

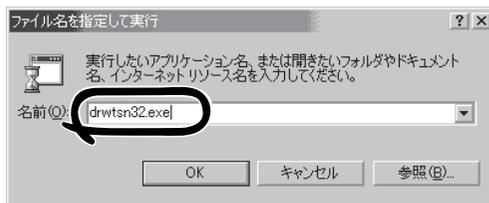
ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpress5800/ftサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. [スタート]メニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

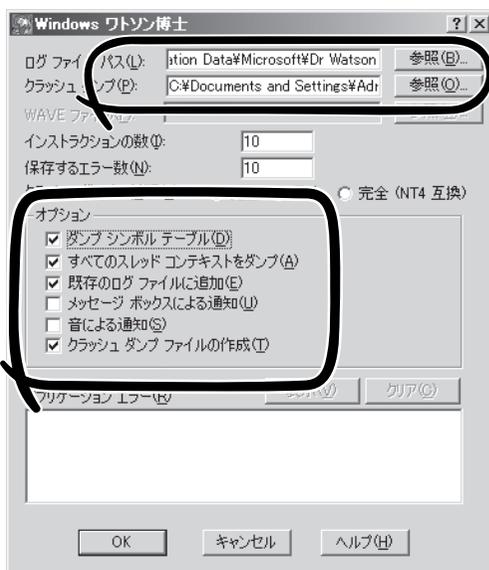
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選び、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

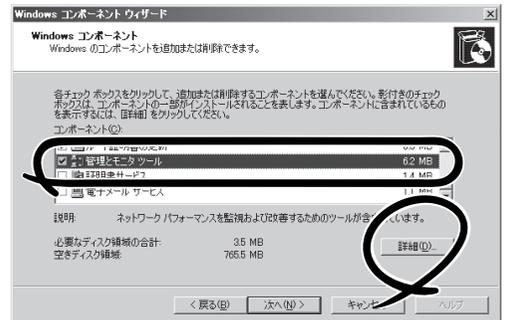
[プログラムの追加と削除]のダイアログボックスが表示されます。

2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

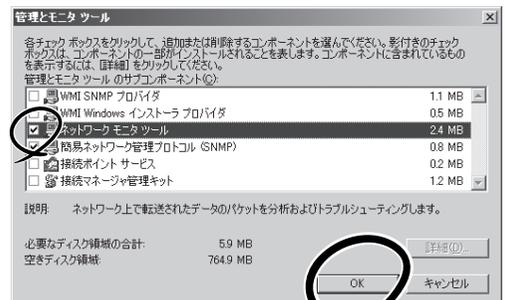
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

3. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]を選択し、画面右下の[詳細]をクリックする。

[管理とモニタ ツール]が表示されます。



4. 管理とモニタツールのサブコンポーネントの[ネットワーク モニタ ツール]チェックボックスをオンにし、画面下の[OK]をクリックする。



5. [次へ]をクリックする。

6. 「Windows Server 2003, Enterprise Edition」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従ってディスクを挿入する。

CD-ROM挿入で表示されるメニューは終了させておきます。終了させるにはメニュー画面の[×]印をクリックします。

7. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

8. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[×]印をクリックする。

ネットワークモニタは、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

回復コンソールの設定



回復コンソールは、何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合に、システムの修復を行う際に使用します。

回復コンソールを使用する場合は注意事項があります。

ユーザズガイド(セットアップ編)「6 故障かな?と思ったときは」-「システムの修復」-「Windows Server 2003 回復コンソールを使用する際の注意点」(6-2ページ)を参照し、設定を行ってください。

MTBFタイプの設定

CPU/PCIモジュールで障害が発生した際の動作を設定することができます。

Express5800/ftサーバではハードウェアコンポーネントのMTBF(平均故障時間)を管理します。CPU/PCIモジュールで障害が発生した際にMTBFを再度計算し、あらかじめ決められたしきい値を下回った場合は該当するモジュールの使用を中止(disable)します。各モジュールでMTBFタイプを設定することで、障害が発生した際にしきい値を計算せずに使用を再開したり、中止することができます。

MTBFタイプの説明

- 「MTBFしきい値有効」【規定値】..... 障害が発生した場合、MTBFを計算し、しきい値を下回ったときモジュールを停止する。
- 「MTBFしきい値無効(常に停止)」..... 障害が発生した場合、MTBFに関わらずモジュールを停止する。
- 「MTBFしきい値無効(常に再起動)」..... 障害が発生した場合、MTBFに関わらずモジュールを再起動する。

初期設定は「MTBFしきい値有効」となっています。



重要

- MTBFがしきい値を下回り、使用が中止されたコンポーネントであっても、MTBFをクリアすれば強制的に使用を再開(enable)させることができます。ただし、強制的に使用する際は保守員に相談してください。
- MTBFタイプを「MTBFしきい値無効(常に再起動)」に設定した場合、モジュールが故障した時にいつまでも再起動を繰り返す可能性があります。MTBFタイプは、繰り返し再起動に失敗した場合は自動で停止させる「MTBFしきい値有効」を推奨します。
- モジュールの交換を行った場合、MTBFタイプは規定値「MTBFしきい値有効」に変更されます。

MTBFタイプの設定手順

1. [スタート]–[すべてのプログラム]–[ESMPRO ServerAgent]–[ftサーバユーティリティ]をクリックする。

[ftサーバユーティリティ]が表示されます。

2. 左ペインの[ftサーバ]ツリーで[CPU/PCIモジュール]から、MTBFタイプを変更したいモジュールを選択し、右ペインの[MTBFタイプ]からMTBFタイプを選択して[適用]をクリックする。

選択したモジュールのMTBFタイプが変更されます。

重要

MTBFタイプは各モジュール単位で設定できます。両方のPCIモジュールを変更させる場合は、各モジュールに対し上記の処理を行ってください。



Step C-12 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して[EXPRESSBUILDER トップメニュー]が表示されます。
3. [ツール]-[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

以上でセットアップは終了です。